

# 六 中国政情

505 昭和7年1月1日 在広東須磨總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

国民党統一政府成立に伴ない広東国民政府解  
消方通令について

広東 1月1日後発  
本省 1月1日後着

第二號

客年往電第七四四號ニ關シ

當地中央黨部及國府ハ舊臘卅日來連日連席會議開催中ノ處  
卅一日ニ至リ

一、南京統一政府ハ一月一日成立ニ決定シタルニ付當地中央  
黨部國民政府及其ノ所屬機關タル財務政務軍事華僑ノ各委  
員會財政外交ノ各部ハ之ト同時ニ取消スコト

二、中央黨部取消ト同時ニ中央執行委員會西南執行部ヲ設ク

三、國府取消シ後西南政務(行政)同軍事(軍事)ノ各委員會及  
西南政務委員會審計處(財政)ヲ設クルコト

一、北平政務委員會ハ李石曾、周作民等ノ盡力ニ依リ近ク成  
立スベク右ニハ主席ヲ置カス各委員ヲ以テ常務委員會ヲ  
組織ノ答

二、蔣、汪合作ハ宋子文ノ奔走ニ依リ漸次成熟シ近ク胡漢民  
系ハ南京ヲ離レ汪、蔣派入京ノコトトナルヘキカ右安結  
條件トシテハ馮、閻ノ政治運動于與ヲ許スモ政權ヲ掌握  
セシメサルニアル由、蔣ハ陳友仁及黃漢梁ニ不滿ナレバ  
近ク右兩者ノ更迭ヲ見ルコトトナルヘシ

三、南京政府ハ學良ノ同政府ニ對スル態度ノ強硬ナルニ一驚  
シ數日前羅文幹ヲ派シ密ニ妥協ヲ申入來レル爲メ學良ハ  
九日右ニ對スル答札ノ意味ヲ以テ王樹簡ヲ南京ニ派セリ  
在支公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

在支公使 南京 漢口 青島 濟南 天津 奉天 哈爾濱  
ヘ轉電セリ

507 昭和7年1月12日 在広東須磨總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

中央政府より広東当局に對する塩收送金方訓  
令ならびに蔣・汪合作の見込みに關し塩務協

ヲ決議シ之ニ同日附ヲ以テ管下各機關ニ對シ「既ニ統一政  
府カ成立シタルニ付本政府ハ民國二十一年一月一日ヲ以テ  
之ヲ撤廢スル」旨通令セリ  
右不取敢

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ  
支、北平、奉天、天津、漢口、南京ヘ轉電シ香港ヘ暗送セ  
リ

506 昭和7年1月11日 在中国矢野大使館參事官より  
犬養外務大臣宛(電報)

北平政務委員會成立の見込みならびに宋子文  
による蔣・汪合作運動について

北平 1月11日後発  
本省 1月11日後着

第一四號

十一日黃濬情報

理ウォオルコットの内話について

広東 1月12日後発  
本省 1月12日後着

第二七號

往電第一七號ニ關シ

十二日鹽務協理「ウォオルコット」ノ本官ニ對スル内話左ノ  
通り

一、鹽收全部ハ豫テ御話シタル經過ニ依リ(客年往電第二六  
五號參照)客年六月以降事實上廣東政府ニ押收セラレ居タ  
ル爲結局「クオート」、レミッタンス」ノ未拂額百十萬元  
ヲ生スルニ至リタルニ付先般稽核總所ヨリ右「アリア」  
ヲ向フ一年間ニ決濟スル様一月一日以降所定ノ割當額(月  
割「クオート」)十萬元並附加稅月額約八萬元計毎月割當  
十八萬元客年往電第二二九號ノ(一)參照)ヲ送金方命令越シ  
鄧召蔭(前財政部長)ト協議中ナリシカ廣東政府ハ解消セラ  
レタルモ所謂西南政治分會ノ意向トシテハ北伐以來當地當  
局ノ發行シタル公債約二千萬元ノ支拂ヲ中央ニ於テ引受ク  
ルニ於テハ勿論鹽收ヲ關收ト共ニ全部中央ニ送金スヘシト  
ノ建前ニテ埒明カサリシ處南京側ヨリ結局二月一日以降出

來得ル限り多額ノ「レミッタンス」ヲ實行方再應訓令越シタリ

三 依テ右ノ趣旨ニ基キ當地當局ト折衝ノ結果鄧ニ於テ上京シ詳細南京政府當局ト打合ノコトニ取纏メタル折柄最近兩三日來仄聞スル所ニ依レハ南京方面ニ於テ蔣介石、汪精衛ノ合作協議成リ最近胡漢民一派ノ大小政客ヲ中央政府ヨリ驅逐スルコトトナリタルノミナラス李濟深ハ蔣介石ノ爲<sup>（余也）</sup>餘漢謀、張發奎等ヲ買收シ廣東ヲ危殆ナラシムルヤノ事態トナリ又候暗雲低迷自然鹽收問題モ元ノ儘トナルヤニ懸念セラル云々

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

公使、北平、南京、福州、廈門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送セリ

508 昭和7年1月21日

在中國守屋臨時代理公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

国民政府による対日国交断絶は中国にとり極めて不利との英字紙の報道振りについて

一 蔣、汪兩名ハ入京セルモ胡ハ恐ラク入京セサルヘク蔣ハ各方面ノ要望將又將來ノ政略上ヨリ入京セルカ現時ノ中央政府ノ儘ニテハ汪トノ御附合ニテ最高顧問ノ如キ立場ナルヨリ直ニ腰ヲ落着ケテ積極的ニハ働カサルヘシ二月一日開催豫定ノ國難會議ニハ對日經濟絶交ノ提議者アランモ如何ニ決スルヤ判明セサルカ假令右決議ストモ實行不可能ナレハ效果無キ次第ナリ

二 中央政府ハ廣東派ヲ中心トシテ組織セラレ居ル處現時政府カ何時迄維持セラルルヤ否ヤ見極メ付カス場合ニ依リテハ再ヒ廣東ニ據ルノ要アリ且ツ財政上モ廣東方面ハ廣東自身ニテ十分維持シ得ル見地ヨリ廣東政治分會ヲ存在セシメ居ル模様ナルカ他方北方ニモ北平、太原政治分會計畫アリ學良トシテハ北平分會ヲ進メツツアルモ未タ實現ニ至ラス自分トシテモ御附合ニ連絡員ヲ出セルモ右ニハ進テ贊成シ居ラス太原分會モ闇ヲ表面ニ立テン爲畫策中ナルカ未タ成立ニ至ラス

三 吳佩孚ハ近ク包頭ニ着スル由ナル處學良トシテハ頻リニ同人ヲ北平ニ迎ヘント代表ヲ派シ又舊直隸派ハ途中ニ於テ形勢ヲ觀望セシムヘク勸メ居ル等ノ報道アルカ目下ノ處自

上海 1月21日後発  
本省 1月21日後着

第二九號

南京政府ノ對日國交断絶ニ對シテハ當地英字紙ハ當初ヨリ連日ノ如ク之ニ關スル南京通信等ヲ詳細ニ報道シ居リ又短評ヲ爲シタルモノ少カラサル處舉ツテ國交断絶ヲ以テ向フ見スノ遣方トナシ右ハ日本ニ對スル挑戰ニシテ結果ハ支那ニ取り極メテ不利ナルモノアルヘシトノ趣旨ヲ警告シツツアリ

南京、北平、天津、漢口、廣東、奉天、青島へ轉電シ上海へ轉報セリ

509 昭和7年1月24日

在濟南西田総領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中央政府の現況に関する韓主席の内話について

濟南 1月24日後発  
本省 1月25日後着

第二〇號

本二十四日本官韓主席ニ會見ノ際韓ハ

分ニハ直接關係ナキ故吳ノ意思那邊ニ在リヤ詳細承知セス云々ト内話セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、青島、南京、奉天、天津、漢口、廣東へ轉電シ芝罘へ暗送セリ

510 昭和7年1月31日

在天津桑島総領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

国民政府の洛陽移駐宣言の背景に関する中国要人の談話について

天津 1月31日後発  
本省 2月1日後着

第四六號

國民政府ノ洛陽移駐宣言ニ關シ當地一部要人ノ談御參考迄目下江西及兩湖地方ニ在ル共產軍ノ實力ハ二十八萬ナルニ對シ武漢方面ニ於ケル政府軍ハ僅ニ夏斗寅及徐源泉ノ部隊二萬五千ニ過キササルヲ以テ共產軍ハ近ク武漢ヲ攻略シ「ソビエツト」政府ヲ樹立スル一方安徽省ノ陳調元ヲ驅逐シ一箇月ヲ出テスシテ南京ヲ衝ク計畫ナルニ付南京政府ニ於テハ豫テ之カ善後對策ヲ講究中ナリシ處到底之ヲ防止シ得サ

ル豫想ノ下ニ今次ノ上海ニ於ケル日支衝突事件ニ藉口シ之レ幸ト蔣介石ノ案ニ基キ國民政府ヲ洛陽ニ移轉スルニ至リシ次第ナリ云々  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口、廣東へ轉電セリ

511 昭和7年2月1日 在濟南西田總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

山東方面における日本側との摩擦回避のため  
韓主席は日本人の自重方切望について

濟南 2月1日後発  
本省 2月2日後着

第三五號

本一日韓主席ハ往電第三四號ノ通内話シタル後話頭ヲ山東問題ニ轉シ

一、自分ハ山東省ノ治安維持ヲ唯一ノ目的トシ又責任トシ居ルハ從來屢々御話申上ケシ處ニシテ最近ノ時局ニ鑑ミ尙一層治安維持ニ努力シ居ル次第ニシテ中央ハ對日宣戰ヲ布告スルカ如キコトナカルヘシト思考スルモ若シ萬一布

都等当面の政局に対する広東派の意向を内報  
こころ

広東 発  
本省 2月3日後着

第八三號(極秘)  
往電第七九號ニ關シ

甲、本一日偶然ニモ鄧澤如ヨリ林麗生ヲ派遣越シ實ハ鄧自身來訪ノ筈ナリシカ此ノ際特ニ人目ヲ避クル要アルヲ以テ林ヲ派遣セル趣ニテ左ノ如ク内報セシメタリ

一、徐州ナル汪精衛ヨリ三十日附ヲ以テ鄧澤如、蕭佛成、陳濟棠、伍朝樞宛ニ國民政府ハ日本ノ壓迫ニ依リ遂ニ徐州ニ移リ更ニ洛陽迄遷都スルノ已ム無キニ至リタル旨電報越シタルニ依リ當地當局ニ於テハ即日緊急會議ヲ召集シ當方面ニ於ケル特殊ノ關係ヲ考慮シテ今後ノ方針(ヲ)熟議シタル結果此ノ際蔣介石ノ尻馬ニ乘リテ上海ニ於ケル日支紛爭事件ニ捲込マルコト國民黨將來ノ爲賢明ナル策ニ非スト爲ス説有力トナリタリ

## 六 中国政情

三、抑蔣介石對胡漢民ノ關係ハ依然氷炭相容レス國民黨ハ現在ニ派二分レ蔣介石派カ日本ト聯絡センカ胡漢民側必ス反

告スル場合ニ於テモ自分トシテハ輕輕シク行動セス現在ノ狀況ヲ維持シタキ考ナリ

三、滿洲及上海事件ハ致シ方無シトテ之ヲ中國全部ニ波及スルカ如キコトハ中日兩國ニ取り甚タ好マシカラサル處ニシテ日本ニ於テモ必要以外ノ行動ハ勿論執ラレサルコトト思考スルカ當山東方面現在ノ實狀ニ鑑ミ自分ト日本側ト事件ヲ惹起セヌ様致シタク右ニハ貴官ノ協力並在留日本人ノ自重ヲ切望ス

尙過日沈青島市長、葛鐵路委員長來濟ノ際種々打合セ又劉珍年トモ聯絡シテ治安維持ニ努ムルコトトセルカ沈市長モ自分ニ對シ日本側トノ接觸ヲ充分ニ保持シ同地方ノ治安ヲ維持スル意向ナリ云ト内話セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、青島、奉天、天津、漢口、廣東、南京へ轉電シ  
芝罘、張店、博山、坊子へ暗送セリ

512 昭和7年2月(3)日 在広東須磨總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

鄧沢如が林麗生を派遣して中央政府の洛陽遷

日トナリ胡派カ親日政策ヲ執ランカ蔣派ハ必ス反日政策ヲ執ルコト自然ノ勢ナリ然ルニ今ヤ蔣派ノ南京政府ハ羅文幹ト何應欽トヲ殘シテ洛陽ニ落延ヒントシシク殘骸ヲ止メ居ル狀態ナレハ此ノ際西南政府ヲ擴張シテ事實上ノ國民政府トスルコト極メテ時宜ニ適スル次第ナル一方上海事變ノ如キハ滿洲事件ニ附隨シテ生シタルモノニテ其ノ責任張學良及蔣介石ニ在ルコト明カナレハ輕卒ニ中央政府ノ命ニ服センカ遂ニ蔣介石ノ術中ニ陥リ延テハ全中國ヲ誤ラシムルコトアルヘキハ想像ニ難カラス故ニ此ノ際ハ暗黙ノ間ニ國民政府ト離レ日本トノ衝突ヲ避クルハ從來廣東國民政府ノ執リタル反蔣運動ノ目的ヲモ達スル所以ナルニモ鑑ミ廣東獨立ノ議漸ク唱ヘラルルニ至リタリ

三、右ニ關シ過般南京ニ於テ孫科、陳友仁ノ執リタル對日絶交案ト黨方面ノ主張トモ實ハ大ナル懸隔アルヤニ思料セラ  
ルルナランモ實ノ處當地ニ於テモ當時孫、陳等カ何故ニ態度ヲ豹變シテ前記提議ヲ敢行セルヤ判明セス頗ル當惑シ居タルカ最近ノ消息ニ依レハ孫科ハ早クモ廣東派カ汪精衛ノペテンニ乘リタル次第ヲ察シ南京側トハ早晩分離スヘキ運命ニアルヲ覺悟シタルヲ以テ蔣介石ニ難題ヲ吹掛ケ之ニ

悪名ヲ負ハセテ南京ヲ引揚ケントシ先ツ(-)學良ノ查辦ヲ要  
求セルカ蔣ヨリ然ラハ西南政府ヲ同時ニ取消スヘシト逆振  
ヲ喰ハサレタルヲ以テ更ニ(二)蔣介石カ政行シ得サルヲ見越  
シ對日國交斷絶ヲ提議シタル次第ニテ寔ニ子供ヲシキ遣口  
ナルカ孫科自身ニ於テモ當初ヨリ右提議ノ無謀ナルヲ充分  
承知シツツ態ト持掛ケタル次第ナリ

四、扱テ當方ニ於テ國民政府ト分離スルニ於テハ何等カ名目  
ナカルヘカラサル處内政的ニ學良ヲ攻撃シ汪、蔣ノ上海事  
件ニ於ケル不始末等ヲ擧ケテ之ヲ賣。黨ト罵ルヨリ外ニ好題  
目見當ラサル次第ナルカ一方當地ノ團結ヲ圖ル上ニ於テハ  
如何ニモシテ胡漢民モ説伏セ伍朝樞ヲ省政府主席ニ就任セ  
シムル要アルヲ以テ目下兩人ノ口説落シニ取掛ル手筈ナリ  
(伍ハ濟棠ニ對シ軍費月額三百萬元ヲ限度トスル旨提案セ  
ルニ對シ濟棠ハ尙逡巡シ居ルヲ以テ今日迄就任ヲ見サル趣  
ナリ)云云

乙、終テ林ハ右ニ關スル貴見如何ト借問セルニ付本官ハ別  
ニ意見トテアルヘキ筈モナキカ至極興味ヲ以テ御申出ヲ聽  
取シタル旨鄧ニ傳ヘラレタシト輕ク應酬シタル上實ハ今日  
午前市長ト會見ノ際モ偶然同様趣旨ノ會談ヲ爲シタル次第

ルカ日支關係ニ對スル劉珍年ノ態度ハ七、八分迄ハ韓復榘  
ノ意向ニ左右セラルヘシ

ニ而シテ韓復榘從來ノ態度ニ鑑ミ將又支那政治家ノ心理作  
用ヨリ推シ萬一南京政府カ對日宣戰等ノコトアリトモ韓ハ  
直ニ之ニ盲從シ對日行動ヲ起スコトナク山東ハ山東トシテ  
先ツ現状ノ儘事態ヲ靜觀スルニ非スヤト思考セラル

三、果シテ然ラハ劉珍年モ韓ト離レテ山東ノ一角ヨリ日本ト  
事ヲ醸スカ如キ危險ナル愚策ヲ執ラサルヘシ即チ當分現状  
ノ儘押進ミ得ルモノト考ヘ居留民ニ對シテモ未タ何等豫告  
ヲ與ヘ居ラス形勢ノ推移ニ應シ貴官ト折衝ノ上居留民ノ仕  
末ヲ考慮スルモ遲カラスト信ス

四、居留民ノ仕末ニ付テハ政府ノ訓令ニ依ル次第ナルカ此種  
事件ニ際シ陸軍隊ニ依ル現地保護ハ當地ノ如キ雜居地帯ニ  
於テハ事實不可能ナルノミナラス形勢急迫セハ婦女女子ハ勿  
論男子ノ大部分モ自發的ニ大連ニ避難シ結局後ニ殘ルモノ  
ハ當館ノ外在留民ノ主ナルモノ十餘名ニ過キサルヘシ云々  
支、青島、濟南ヘ轉電セリ

ナリト告ケタル處林ハ貴官ノ右御感想ハ早速鄧ニ復命スヘ  
キカ同人ハ恐ラク兩三日中ニ右ノ案ヲ携ヘ胡漢民ヲ往訪ス  
ルコトトナルヘシト申述ヘテ引取りタリ  
支ヨリ上海、南京ヘ轉報アリタシ  
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、福州、廈門、  
汕頭ヘ轉電シ香港ヘ暗送セリ

513 昭和7年2月3日 在芝罘内田領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

國民政府對日宣戰等の場合における劉珍年の  
態度に關し驅逐隊司令に見解回答について

芝罘 2月3日後発  
本省 2月4日前着

第八號

當地警備中ノ驅逐隊司令ヨリ南京政府宣戰等ノ場合ニ於ケ  
ル劉珍年ノ態度ニ付本官ノ見解ヲ尋ネ出テタルニ付大體左  
ノ通り答ヘ置キタリ

一、南京政府ノ宣戰云々ハ中々實現セサルヘキモ上海ノ事態  
如何ニ依リテハ最惡ノ場合ヲ考慮セサルヘカラサル次第ナ

514 昭和7年2月12日 在漢口坂根總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

何成瀋湖北省主席は武漢方面への上海事変の  
影響を危惧し治安対策に腐心について

漢口 2月12日後発  
本省 2月13日前着

第一〇八號

何成瀋ハ其後モ引續キ當方ト密接ナル聯絡ニ心懸ケ對日關  
係事項ハ其大小難易ニ拘ラス細心ノ注意ヲ以テ敏速處理ニ  
努ムル外民衆指導ニ付テモ當方ノ注意ニ依リ若ハ注意ヲ待  
タスシテ拔目ナク取計ヒ居ル模様ナル處右ハ單ニ上海事件  
影響ノ當地波及ヲ恐レ居ル爲ノミナラス共產黨及反動分子  
ノ策動ニ依リ累ヲ武漢ノ治安ニ及ホサ(サラ)ントスル苦心  
ニ出ツモノナルヘキカ其二三ノ例トシテ

一、日本租界附近一帶ニ於ケル嚴密ナル戸口調査及家宅捜査  
ヲ行ヒ無賴ノ徒及無職者ヲ放逐シ何直屬ノ公安隊ヲ以テ租  
界周圍ニ於ケル事故發生ヲ防止シ居リ學生及工人ハ日本租  
界附近ニ近付ケサルコトナセリ

二、何ハ昨十一日市黨部役員ヲ招致シ武漢反日會ハ既ニ解散

第一三四號

広東 2月20日後発  
本省 2月21日前着

広東当局による国民政府および十九路軍に對する不即不離の方針について

516 昭和7年2月20日 在広東須磨總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

本官モ之ヲ諒トシタルカ一方往電第五九號保安隊暴行事件ノ取扱ヲ見ルニ之等事件ヲ口實ニ實力ヲ行使シ討張ノ目的ヲ達セントスルカ如キハ目下上海ニ於ケル事態ニ顧ミ殊更面白カラストノ方針ニシテ駐屯軍近來ノ態度ハ當地ニ關スル限りハ中央ノ意圖ヲ體シ相當慎重ニ行動シ居ルモノト認メラル(往電第五七號參照)尙軍ハ連日郊外支那部落ニ於テ演習ヲ爲シ居ルモ右ハ兵ノ訓練上必要ニシテ而カモ條約上ノ權利ニ基ク次第ナレハ本官ニ於テハ此ノ上トモ支那側ト協調シ誤解ニ依ル事端ノ發生ヲ防止スル方針ナリ北平宛貴電第二一號前段御懸念ノ次第モアルニ付爲念支、北平へ轉電セリ

往電第一二三號ニ關シ  
一、當地當局ノ方針ハ往電第一〇九號ノ通り胡漢民ノ(指示カ)支持ニ依リ南京及十九路軍側トノ關係ヲ不即不離ナラシムルモノノ如ク從テ同軍ニ對シ義理ヲ缺カサル程度ノ援助ヲ與ヘ居ル模様ニテ現ニ諜報ニ依ルモ最近蔡延楷ヨリ陳濟棠ニ「滬海關ヲ掌握シ居リ現金ニハ困ラサルニ付他ノ物質的援助ヲ至急願度キ」旨密電ヲ寄セタルニ對シ濟棠ハ軍用品送付ヲ引受ケタル趣ナル一方各界ヨリ寄附金ヲ強要シ抗日會沒收日貨全部ノ賣上金等ヲモ送付シ居ル模様ナリ  
二、然ルニ最近十九路軍側ノ宣傳益々猛烈ヲ極メ徒ニ民衆ヲ熱狂セシメ居ル状態ニ付將來其ノ反動アルヘキヲ内心憂慮セルモノカ昨今民衆ノ鎮靜ニ努メ専ラ「兩廣軍援助ノ志ハ中央ヨリ阻マレ居ル」旨ヲ宣傳シ暗ニ反蔣ノ氣運ヲ促進シ居ルト同時二十九路軍援助ニ深入セサルヲ理由付ケントスル傾向濃厚トナリタルカ恐ラク茲數日ハ靜觀的態度ヲ持シ上海ニ於ケル形勢及之ニ對スル南京側ノ出方ヲ見極メタル上何等カ方針ヲ確定スルニ非スヤト觀測セララル  
公使、北平、奉天、天津、濟南、青島、漢口、南京、福州、

ヲ命セラレタルヲ以テ他ノ團體ニ於テモ日貨抵制ノ實行ハ許ササル旨申渡セリ(往電第一〇七號)

一、十日何ハ警備司令ニ命シテ布告ヲ發セシムルト共ニ各巡警ニ命シ紀元節ニハ各國軍艦砲禮ヲ交換スヘキニ付市人ハ驚カサル様周知方取計ヘルカ我方ニ於テ禮砲ヲ差控ユルコトトナリタル爲何ハ楊揆一ヲ通シ當方ノ心遣ヲ謝シ來レリ  
一、當地郵政管理局ハ日本租界郵便局(舊日本郵便局跡)ヲ租界外三源里ニ移轉セント計畫中ナル旨聞込ミタルヲ以テ楊揆一ニ注意セル處揚ハ甚タ不都合ナリトシ之カ實行ヲ見ハ日本人殊ニ海軍水兵等多數租界外ニ出テ來タリ誤解ヲ生スル恐アリトノ趣旨ヲ以テ直ニ局長ニ對シ中止ヲ命スヘキ旨約セリ  
一、上海ニ於テ日清汽船ヨリ下船セル支那人船員(漢口人)多數英國船安慶ニテ南京通過ノ際雲陽丸船員ニ下船ヲ迫リ海軍側ニ於テ辛シテ之ヲ食止メタル旨情報アリ安慶ハ十二日當地ニ入港スヘキニ付近ク上海ニ下航スヘキ信陽丸船員ニ對シ斯ル舉動ナキ様取締ヲ求メタルニ綏靖公署ハ之ニ對シ早速取締手配ヲ講シタル趣ナリ  
往電第四四號ノ通り轉電暗送セリ

515 昭和7年2月19日 在天津桑島總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

李際春一派の租界を根拠とした画策情報に關し軍側に照会について

天津 2月19日後発  
本省 2月19日後着

第七三號(部外極秘)  
往電第六五號前段ニ關シ(電信課註十五日着第六〇號ハ第六五號ノ誤?)  
李一派カ租界ヲ根據トシ近ク旗擧ヲ爲スヤノ情報アリシヲ以テ過般司令官ニ對シ政府ノ方針トシテ右様行動ヲ許シ得サル次第ハ天津事變以來屢々懇談セシ通ニシテ司令官亦之ニ同意セラレタリシカ今日ニ於テモ同様ノ意見ナリヤ又軍ニ於テ李ノ斯ル運動ニ關係無キヤヲ質シタル處翌日參謀長ヲ派シ軍ハ李一派ノ斯ノ如キ策動ニ無關係ニ付彼等カ租界内ニ便衣隊ヲ引入レ或ハ武器ヲ隱匿スルカ如キ場合等ニモ如何ニ之ヲ處分セラルルモ何等異存無シ尤モ彼等ハ等シク反張派ナレハ租界内ニ於ケル居住ハ許サレ度キ旨回答アリ

厦門、汕頭へ轉電セリ

517 昭和7年3月5日

在広東須磨總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

広東側の国民政府に対する態度について

広東 3月5日後発  
本省 3月6日後着

第一七三號

往電第一三四號ニ關シ

一、廣東側ハ依然不即不離ノ態度ニテ南京側ノ日支問題處理振ヲ靜觀シツツアルカ如キ處其後ノ情勢左ノ通  
二、四日諜報者ノ情報ニ依レハ廣東側ハ今次十九路軍ノ大敗ヲ蒋介石ノ所爲ニ歸シ以テ更ニ反蔣ノ氣運ヲ高メ目下開會中ノ廣東省黨部五全大會(往電第一六二號)ヲ利用シ當地殘留ノ中央黨部委員ヨリ代表十三名ヲ推薦シテ當地ニ中央特別委員會ヲ組織シ之ヨリ反蔣抗日ヲ標榜セル廣東國民政府ヲ生ミ出サント計劃中ナリヤノ消息アリ  
三、然レトモ右運動ニ關シテハ陳濟棠ハ當初ヨリ胡漢民ノ意ヲ体シ政客連ノ輕舉妄動ヲ抑ヘ來リタルノミナラス實ノ處

518 昭和7年3月12日

在芝罘内田領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

山東における劉珍年の対日態度等について

芝罘 3月12日後発  
本省 3月12日後着

第一六號

坊子發閣下宛機密公信第五八號ニ關シ

劉珍年ハ一般ニ灰色ト見ラレ居ルモ近來頻リニ中央擁護ヲ高調シ蔣介石側ニ接近ヲ計リ又地盤ノ關係上張學良トモ惡シカラス性陰險ニシテ黙々トシテ兵備ヲ練リ虎視眈々山東ノ中原ヲ睨ミ濟南政權者トハ常ニ確執ヲ續ケ他方近來兎角日本ニ對スル理解ヲ缺キ我海軍ノ時々來港スルニ付テモ徒ニ神經ヲ尖ラシ或ハ韓復榘ト諒解ナクシテ單獨抗日通電ヲ發スル等ノコトアリ爲ニ劉ノ對韓復榘及對日態度ニ疑惑ヲ生スル次第ナルカ現在ノ情勢ニ於テハ劉ヨリ事ヲ起スカ如キコト絶對ニ想像セラレサルモ若シ韓ニシテ何等策動開始等ノコトアラハ豫メ劉ヲ抱キ込ミ背後ノ脅威ヲ除去スルコト韓ニ取り絶對必要ナルヘク此ノ意味ニ於テ時局ノ動キニ

獨立政府組織ノ計劃ヲ此ノ際具体化スルコトトモナラハ孫科、陳友仁ノ南下ヲ促進シ彼等ヲシテ再ヒ廣東ノ地盤ヲ荒サシムル結果トナルヘキヲ以テ機會アル毎ニ孫科等ニ對シ故意ニ冷淡ナル態度ヲ示シ差當リ廣西實力派ト協力シテ專ラ兩廣ヲ固メ機ノ熟スル迄ハ早急ニ反蔣ノ旗幟ヲ鮮明ニシ輕舉獨立政府ヲ組織スルカ如キコトナカルヘク過般名義上ニモシロ程天固以下數名ヲ洛陽ニ中全會委員ニ任命セルハ(往電第一五六號)此ノ間ノ事情ヲ物語ルモノナルヤニ察セラル

三、尤モ反蔣氣運醸成ノ爲ニハ所有機會ヲ利用スヘク本五日ノ如キ既ニ廣東省五全大會ヲシテ反蔣ノ通電ヲ發セシメタル次第ナルカ(往電第一七〇號)一方昨四日財政廳長馮祝萬ヲ南京ニ派シ共匪討伐ヲ理由トシテ中央ヨリ軍費ヲ要求シ若シ中央ニテ都合付カサレハ當地ノ關餘及鹽餘ヲ差押フヘシトスルヤノ形勢ヲ示シ財政的ニモ漸次中央政府ヲ窮地ニ陷レシメントシ居ルモノノ如シ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ  
支、北平、奉天、天津、濟南、青島、漢口、福州、南京、汕頭、厦門へ轉電セリ

依リテハ韓ヨリ使者派遣ノコトハアリ得ヘキ次第ト存セラ  
ル御參考迄  
支、北平、青島、濟南へ轉電シ坊子、張店、博山へ暗送セ  
リ

519 昭和7年3月13日

菊地(門也)支那駐屯軍參謀長より  
真崎參謀次長宛(電報)

満州国成立を機会に日本の支援による蒙古獨立  
に關シ察哈爾方面蒙古人有力者の意向について

天津 3月13日前發  
參謀本部 3月13日後着

天第六一二號

察哈爾省内ニ於ケル蒙古獨立論者ニシテ目下北平ニ在ル卓總管(ユウアリ)旗隊長トシテ察哈爾旗ニ勢力ヲ有ス(薩總管ノ兩名ハ森島角房ニ對シ左ノ如ク希望ヲ述ヘタリト)ノコトナリ天電第六〇四號ト對照セハ該方面蒙古人ノ情況ヲ知ル參考トナルヘシ察哈爾方面ノ蒙古有力者ハ滿洲國ノ成立ヲ見就中宣統帝ノ復活ニ多大ノ好感ヲ有シ機會アラハ察哈爾、錫林郭勒兩盟ノ蒙古兵數千ヲ合シ獨立ヲ宣言セントス

ル企圖ヲ有ス然レトモ目下張家口方面ニ尚學良軍ノ嚴存セ  
ルト熱河省ノ態度明カナラサル爲躊躇シアリ、東部方面ノ  
蒙古軍ニシテ林西附近ヲ確保シ該方面ヨリ支援ヲ得ルニ至  
ラハ蹶起シ得ルニ至ラン其際日本側ノ後援ヲ得度  
尙錫林郭勒盟長徳王(蘇尼特王)ニ宣統帝ヨリ親翰ヲ送ラル  
ルナラハ一層好都合ナリ

目下外蒙方面ノ蒙古人ニシテ蘇人ノ壓迫ニ堪エカネ察哈爾  
ニ逃ケ來タル者少カラス之等ノ手ニ依リ外蒙ノ一部モ引キ  
入ルル目算アリ云々  
關東、北平スミ

520 昭和7年3月16日 在南京上村總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

蔣介石が近く軍事委員会委員長に就任し軍事上  
の全責任を負う旨ロイター通信の報道について

南京 3月16日後発  
本省 3月17日前着

第二三九號 十六日ノ新聞ハ蔣介石カ十四日夜路透通信員ニ對シ大要左

ヘキモノナレハナリ  
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口ニ轉電シ、廣東  
ニ暗送セリ  
奉天ヨリ長春ニ轉報アリ度シ

521 昭和7年3月23日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

十九路軍に資金援助した上海市代表は屈辱的  
条件での停戦交渉開始を蔣光鼐に詰問について

上海 3月23日後発  
本省 3月23日後着

第五一四號

一、蔣光鼐突然ノ歸寧ニ付情報ヲ綜合スルニ當地七十二團體  
代表(全市民代表トモ言ヒ得ル由)王某ハ昨日蔣ニ面會シ  
上海市民ハ十九路軍カ最後ノ一兵迄モ抵抗スルコトヲ標  
榜シ居リタル爲數百萬元ニモ上ル援助ヲ與ヘ來レリ然ル  
ニ今ヤ甚タシク屈辱的ナル條件ヲ以テ停戦交渉ヲ開始セ  
ントスルハ奇怪千萬ナリ貴公等ハ自己ノ懷ヲ肥サンカ爲  
二十數億ノ犠牲ヲ敢テシテ迄對日抗爭ヲ續ケントスル民

ノ通語リタル旨報道シ居レリ  
一、余ハ近ク軍事委員會委員長ニ就任シ軍事上ノ全責任ヲ負  
フコトナレリ

二、余ハ從來責任ヲ回避セルコト無ク上海方面ノ軍隊ニ對シ  
テモ相當ノ援助ヲ與ヘ居リ從テ外間傳フル處ハ信スルニ足  
ラス

三、支那ハ和平解決ヲ希望スルモ若シ日本ニ於テ侵略行爲ヲ  
止メサレハ飽ク迄奮闘ノ準備ヲ爲スヘシ

四、日本ハ既ニ聯盟總會ノ決議案ヲ受諾スルコトナリタル  
ニ付問題ノ解決モ比較的有望ナルカ如シ

五、日本ハ上海ヨリ撤兵ストノ報アルモ一方ニ於テ増援軍  
着々送ラルヘク撤兵説モ結局聯盟調查員カ到着セル爲ナル  
ヘシ日本ニ誠意無ク若シ攻撃ニ出ツルニ於テハ支那軍ハ強  
ク抵抗スヘク其ノ責任ハ素ヨリ日本側ニ在リ

六、<sup>(載カ)</sup>載天仇ノ渡日説ハ全ク事實無根ニシテ目下人ヲ日本ニ派  
ス時機ニ非ス

七、東三省問題ニ關シテハ政府ニ於テ慎重對策攻究中ナルカ  
之ヲ討伐スルニ決定セリトノ説ハ事實無根ナリ何トナレハ  
東三省問題ハ調査員ノ調査ヲ俟チテ聯盟ニ於テ解決セラル

衆ノ決意ヲ蹂躪セントスルカ之ヲ押切りテ迄交渉ヲ行ハ  
ント欲セハ先ツ與ヘタル數百萬元ヲ民衆ノ手ニ返セ云々  
ト強ク交渉開始ニ絶對反對ノ意向ヲ表明シタル處蔣ハ理  
ノ當然ニ返ス言葉モナク離滬スルコトトナリタル趣ナリ  
二、二十一日夜戴戟及全人秘書長孫文ヨリ得タル情報ナリ  
トテ前線ニアル支那軍配置狀況ニ付山本英次ノ語レル處  
左ノ通

イ、第十九路軍ハ再ヒ兵力ヲ増加シ現在數三萬ニ及ヒ陳  
銘樞自ラ之ヲ指揮シ蘇州以西ノ滬寧鐵路沿線ニ

ロ、胡宗南軍約二萬ノ主力ハ崑山方面ニ

ハ、上官雲相軍及八七、八八師ノ殘部ハ太倉方面ニ

ニ、梁冠英軍ノ一部ハ蘇州ニ

ホ、蔣鼎文ノ一部ハ蘇州及滬杭鐵路間ニ

ヘ、魯滌平軍約一萬二千陳誠軍六個師中ノ一部及孫連仲  
軍ノ一部ハ滬杭鐵路沿線ニ在リ  
右兵力總數十五萬ニ達シ内滬杭沿線ニ在ル兵力最モ雄厚  
ナリ  
尙軍側ニテハ前記陳銘樞軍及陳誠軍寢返リシ反蔣運動ニ  
加擔スル筈ナリト語リ居レリ

公使ニ轉報シ北平、奉天、天津、漢口、南京、廣東、福州、汕頭、厦門、香港ニ暗送セリ

522 昭和7年3月25日 在広東須磨總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

広東地方の対日感情に関する林雲陔省政府主席の談話について

広東 3月25日後発  
本省 3月26日後着

第二三三號

上海事件勃發以來モ當地支那側官憲トノ接觸ニ努メ來リタルカ彼等ハ兎角本官トノ面會ヲ避ケ居リタル處最近一般對日感モ漸次好轉ノ徵アル爲ニカ二十五日林雲陔(省政府主席)ハ病ヲ押シテ快ク本官ニ面會セリ

一、當地ノ對日感情モ漸次落付キタルヲ以テ目下沙面避難中ノ邦人ニ出來得ル限り早メニ支那街歸還ヲ許スコトト致シ度シト述ヘタルニ對シ林ハ自分等ニ於テモナルヘク速ニ舊狀ヲ回復シ度キ希望ニテ種々努力シ居ル次第ナルカ何分尙反動分子等ノ活動止マス自分等ヲモ暗殺スル等計

上海 3月29日後発  
本省 3月30日前着

第五三七號(部外秘)

當地青幫ノ元老黃金榮ノ片腕タル唐沛生ノ談トシテ南部(陸軍側秘密策動ニ參畫シ居レル人物)カ昵懇ノ館員ニ對シ語レル處左ノ通

杜月笙ハ蒋介石ノ内命ヲ受ケ日支停戰交渉決裂ノ際日本軍ノ後方擾亂ヲ行フ爲最近杜ノ郷里高橋鎮ニ於テ密ニ便衣隊ヲ指揮シ(其ノ數一萬四千ト稱シ居レルモ多少誇張ノ點アリ但シ最少三四千ハ下ラサルヘシ)之カ訓練指揮ノ適任者トシテ唐沛生ニ目星ヲ附ケ右引受ケ方依頼越ノ次第モアリ唐ハ其ノ諾否ニ付親分黃金榮ニ相談シタル處黃ハ杜カ近頃蔣ト結託シ政治運動ニ熱中シ兎角青幫本來ノ職責タル上海ノ治安維持ヲ顧ミサルニ對シ快カラス思ヒ居ル折柄ナリシヲ以テ自分等ハ上海地方治安問題以外政治問題ニ携ルヲ欲セスト右依頼ヲ退ケタリ依テ杜ハ已ムヲ得ヌ部下ノ鄭光軍(孫傳芳ノ舊部下旅長)及王鎮川(軍醫出身)ノ兩名ヲシテ之ニ當ラシムルコトトナリ二十六日墓參ノ爲ト稱シ自ラ右兩名等ヲ引連レ高橋鎮ニ赴キタル趣ナリ尤モ右ニ對シ現ニ

畫シ居ル者モアル旨申述ヘ暗ニ暫ク現状ヲ維持セラレ度キ意味ヲ仄メカセリ

三、汕頭及海南島方面ノ排日殊ニ汕頭市長ノ非友誼的態度ニ關スル本官ノ注意ニ對シテハ後者ニ對シテハ既ニ手配済ミニテ又汕頭市長ニモ自分ヨリ充分注意ヲ與ヘ置ク旨申述ヘタリ

三、尙其際林ハ上海事件ニ依リ日支兩國トモ愈々戰爭ハ無益ナルノミナラス徒ラニ第三國ノ利益ヲ増大セシムル結果トナルヘキカ故ニ之ニ依リ却ツテ年來ノ紛糾一掃セラレ舊ニモ増シテ友誼關係進展ヲ期待シ得ヘシト語り極メテ打チ解ケタル態度ニテ御世辭等ヲ使ヒ居タリ  
公使ヨリ上海ニ轉報アリ度シ  
公使、北平奉天南京汕頭ニ轉電セリ

523 昭和7年3月29日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

杜月笙が蒋介石の内命で日中停戰交渉決裂の際日本軍の後方擾亂を行うため便衣隊指揮について

杜月笙ノ顧問格タル章士釗ハ山本英次ニ對シ便衣隊ノ組織ヲ否認シ單ナル墓參ノ爲ノ大名行列ニ過キスト稱シ居タル由ニテ眞偽遽ニ判シ難キモ右聞込ノ儘御參考迄尙南部ノ立場モアリ部外極秘トセラレタシ

北平、奉天、天津、南京、漢口、廣東へ轉電シ支へ轉報セリ

524 昭和7年4月21日 芳沢外務大臣より  
在英國松平大使、在米國出淵大使、  
沢田連盟事務局長他宛(電報)

蔣・汪合作など中国一般政情について

本省 4月21日発

合第一〇四三號  
「支那情報」  
往電合第二二六號ニ關シ

一、其後支那政情ハ全般ヲ通シテ顯著ナル進展ヲ見ヌ即チ中央ハ馮玉祥ノ失脚(馮ハ上海事件ニ乘シ舊部下ヲ糾合シテ江南ノ地盤ヲ獲得セムト試ミタルカ如キモ失敗ニ歸シタル模様ニシテ目下山東泰安ニ隱遁中)ニヨリ蒋介石(三月十八日軍事委員會委員長兼參謀總長ニ就任)汪精衛(行

政院長ノ合作ヲ以テ維持セラレ(國民政府主席森林ハ傀儡ニ過キス)而シテ國民政府ハ一月三十日洛陽移轉後三月上旬第二次中央全体會議及四月上旬國難會議ヲ開催シ僅カニ其ノ存在ヲ示スノ有様ナルカ一方北平ニ於テハ張學良ハ蔣介石トノ提携ニヨリ其地位擁護ニ腐心シツツアリ之ニ對スル吳佩孚(二月一日甘肅ヨリ北平ニ來着)段祺瑞及閻錫山等ハ何レモ實力ナク且又相互連絡ヲ缺クノミナラス山東ノ韓復榘カ依然大勢觀望ノ態度ヲ持シタル爲彼等ノ所謂北方大同團結モ掛ケ聲ノミニシテ差當リ具体化ノ模様モ見エス只湖北省ニ於テ四月十一日省政府改組(何成濬辭職シ夏斗寅主席トナル)ノコトアリシモ右ハ湖北人ノ湖北主義ノ實現ニシテ政局上大ナル波紋トナスヲ得ス

三、尤モ上海事件ハ中央ノ立場ヲ著シク困難ナラシメタルカ如ク反蔣各派ハ上海停戰協定ヲ以テ蔣ノ對外軟弱攻撃ノ具ニ供セムトシ爲ニ同協定容易ニ調印ノ運ニ至ラス之ニ對シ蔣介石ハ其財源タル上海ノ奪回ヲ目標トシテ十九路軍ノ背後ニ大兵(約十萬)ヲ集中スル一方最近廣東實力派陳濟棠ニ懐柔ノ手ヲ延ハシテ胡漢民ヲ中心トスル反蔣勢

525

昭和7年4月27日 在広東須磨總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

西南委員會開催模様ならびに福建方面の共産軍侵入等に関する伍朝枢の談話について

広東 4月27日後発  
本省 4月27日後着

第三二九號  
往電第三〇九號ニ關シ

陳濟棠ノ歸來ニ伴ヒ當方面政局ニ關シ種々ノ觀測ヲ生シ殊ニ歸來後毎日ノ如ク臨時會議及西南委員會開催セラレツツアル爲メ濟棠モ結局胡漢民派ニ引摺ラレ愈西南獨立ニ加擔スルトカ福建共匪猖獗ノ爲メ將又財政窮乏ノ爲濟棠モ獨立ヲ宣シ海關押收ノ腹ヲ極メタリトカ種々取沙汰セラレ當地政局相當押シ詰メラレタルヤノ消息ヲ生シ居ル處右ニ關シ伍朝枢カ廿七日日本官ニ對スル談話左ノ通り

一、廿六日ノ西南委員會ニ於テ陳濟棠、李宗仁ニ對スル南京側ノ任命ヲ受諾ス可キヤ否ヤヲ討議シタルハ事實ナルモ結局今急キ右ヲ受諾スル必要無キ事ニ意見一致シ又假ニ

力ノ根據ヲ失ハシメムト策シツツアルカ如キモ右ハ却ツテ地方實力者ノ増長ヲ誘致スヘキヤニ觀測セラル尙最近國民一般ニ亘リ國民黨ノ私政、無力ヲ慨シ同黨打倒ノ氣運動キツツアルヤニ傳ヘラレ殊ニ上海、天津等ニ於ケル國家主義青年同盟ノ勢力擡頭注意ニ値ヒスルモノアリトノコトナリ

三、更ニ共匪其後ノ活躍目覺シキモノアリ即チ湖北省ニ於テハ曠繼勳、賀龍、段德昌、孔荷龍等ノ共匪屢々武漢附近ニ出沒シ聯盟調査員一行カ漢口ヨリ平漢線北上ヲ取り止メタルハ之カ爲ナルヤニ傳ヘラレ省政府側ニ於テハ四川軍ヲ宜昌、沙市方面ニ引入レ辛ウシテ全省赤化ヲ防止スルノ有様ナリ又江西省ニ於ケル朱、毛等共匪ハ本年初頭遂ニ贛州ヲ陥レ全省三分ノ一ヲ其ノ手中ニ收メタルカ中央ニ於テハ三月上旬來有力ナル部隊(陳誠指揮ノ兵力約三萬)ヲ派遣シテ之ヲ壓迫セル爲共匪ハ最近廣東、福建方面ニ進出ノ氣勢ヲ示シ就中曩ニ共匪ニ投シタル孫連仲軍(約一萬五千)ハ目下廈門方面ニ迫リ同地駐防ノ張貞軍危險ヲ傳ヘラレツツアリ

(佛宛電報末尾ニハ「壽府ヘハ直接電報濟ミ」ト附記ノコト)

他日受諾ノ場合ト雖モ單ニ名目ノ變更ニ止マル可ク軍ノ編成等實質ニ於テハ變化無ク況ンヤ右受諾ト共ニ西南委員會解消セラル可シト云フカ如キハ香港方面ノ新聞消息ノミ要スルニ今ノ處當方面ニ何等變化ヲ來ス事無カル可シ

三、福建方面ノ共産黨侵入ハ實ハ廣東側カ江西ヨリ共匪ヲ追撃シタル爲生シタル問題ナレハ自然當地トシテモ責任アリ爲ニ單ナル廣東省境防護以外ニ福建方面ヨリ共匪ヲ押シ除クル爲行クハ相當積極の二出ツルノ外無キ見込ナリ(此ノ點往電第三二五號參照)

三、自分ハ南京ヨリ司法院長ニ就任方其後モ再三懲懲セラレタルモ南京トハ事實上絶縁シ居リ専心海南島ニ赴キ度キ所存ニテ同島特別區創設費五拾萬元ヲ受ケタル上自ラ同島ニ赴ク所存ナリ

四、廿五日孫科カ上海ニ於テ發表シタル抗日救國綱領ナルモノニ付テハ特ニ當方ニ照會越シタル事ナキモ右ハ同人從來ノ個人的主張ヲ發表シタルモノニ過キサル可シ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、奉天、天津、南京、漢口、福州、廈門、汕頭ヘ

轉電シ香港へ暗送セリ

526 昭和7年5月2日 在香港吉田総領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

陳濟棠が空軍を掌中に入れ更に海軍の改組も断行し広東政局を有利に導こうとする計画について

香港 5月2日後発  
本省 5月3日前着

第七八號

一、陳濟棠ハ黃光鏡ヲ第一集團空軍總司令代理ニ任シ空軍ヲ自己掌中ニ入ルル事ニ成功スルト共ニ更ニ海軍ノ改組ヲモ断行シ廣東政局ヲ自己ニ有利ニ導カント計畫シ居ルモノノ如ク此ノ間ノ事情ヲ看破セル陳策ハ昨ニ日突如當地ニ逃避シ來リ兩粵時局ハ茲許暗雲低迷ノ感有ル處特ニ注意ヲ要スルハ前記黃ノ任命カ西南政務委員會ノ名儀ヲ以テ爲サレタル事並ニ所謂太子派ト見ルヘキ張惠長、陳策等ヲ排撃シ只管胡漢民等元老派ニ歡ヲ通シ西南政務ノ存在ヲ意義有ラシメント策シ居ル事等ニシテ右ハ濟棠今後

六 中国 政情

旗揚ケノコトニ決定シ陳濟棠カ中央任命ニ就職セス或ハ秘ニ胡漢民ヲ香港ニ訪ヒ或ハ今次空軍ノ改組ヲ行ヘルカ如キモ皆之カ爲ニシテ北方ニ於テモ之ト相呼應シテ石友三ノ蹶起馮玉祥ノ獨立宣言ヲ見ル手筈ニナリ居ル趣ナリ尙諸情報ヲ綜合スルニ厦門方面ニ於ケル所謂共產軍ハ孫連仲ヲ通シ馮玉祥ト聯絡アリ(右ハ昨年來上海ニ於テ李立三及馮玉祥代表參謀長劉驥間ニ話合ノ結果ニシテ劉驥自ラ福建汀州ニ孫連仲ヲ訪ヒタリトモ傳ヘラル現ニ前記共產軍ハ兵數約四萬ト稱セラルル由ナルモノ本物ノ共產軍ハ一萬二千ニ過キス他ハ何レモ孫ノ部隊及土匪ナリト云フ)又右共產軍討伐ト稱シ廣東軍カ福建入りヲ試ミツツアルモ之亦胡漢民ヲ介シテ馮玉祥陳濟棠間ニ了解アル元々馴合ヒノ仕事ニシテ何レ兩者一致シテ北方ニ向ツテ討蔣ノ軍ヲ進メン計劃ナルモノノ如ク又湖南省ニ劉建緒唐蟒合作ノ上何健追出計劃密カニ進メラレ居リ更ニ上海附近ニ於テモ十九路軍ト南京側トノ關係面白カラサル處ヨリ(蔣光鼐モ遂ニ名實共ニ總指揮ノ地位ヲ辭シタル趣)或ハ十九路軍ノ南入市入り等傳ヘラレ此間在當地安福派要人モ之等ト往來シテ反蔣の策動ヲ試ミツツアル模様ナレハ各地共產軍ノ勢力増大ト相俟テ停戰交

ノ行動ヲ何等裏書スルモノトモ思料セラル

三右廣東ノ對中央態度漸ク尖銳化シ來レル折柄當方面ノ消息ニ依レハ胡漢民一派ハ從來掲ケ來レル反蔣ノ看板ハ徒ニ内亂ヲ醸成セシムルモノトシテ時節柄一般ニ不人氣トナルヲ慮リ此ノ際屈辱外交排撃ヲ看板トシテ全國民衆ノ人氣ニ乘リ當初ノ目的ヲ貫徹スヘク只管上海停戰交渉ノ成行ヲ靜觀中ナル趣ナリ  
公使ヨリ上海、南京ニ轉報アリタシ  
支、北平ニ轉電シ廣東ニ暗送セリ

527 昭和7年5月4日 在上海村井総領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戰協定成立後の國民政府は前途益々多難を予想される情況について

上海 5月4日後発  
本省 5月4日後着

第六四七號

三日吳蒼カ館員ニ語レル内話ニ依レハ豫テ醞釀中ナリシ廣東獨立モ愈停戰協定成立ヲ切掛ニ屈辱的媾和反對ヲ標榜シ

涉成立後ノ國民政府ハ前途益々多難ヲ豫想セラル支ニ轉報セリ  
北平、奉天、漢口、廣東、南京、長沙、厦門、福州、汕頭、青島、濟南、天津ニ轉電セリ

廣東ヨリ香港ニ暗送アリタシ

528 昭和7年5月9日 在南京上村総領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

國民政府は洛陽が不便のため南京に復帰方政府委員會議で決定について

南京 5月9日後発  
本省 5月9日後着

第三六八號

國民政府洛陽遷都後當地中央黨部及政府各部等ハ南京辦事處ナル門標ヲ掲ケ居ル處最近ニテハ洛陽ニ在ルハ林森以下文官處參軍處及主計處ニ屬スル職員ノ大部分及中央黨職員ノ一部ノミニテ行政院長及各部長以下重要職員ハ殆ト當地ニ在ル實情ナルカ新聞報道ニ依レハ國民政府ハ洛陽ニテハ發令其他ノ不便ナル爲近ク南京ニ復歸セントスルノ議有リ

十日洛陽ニ於ケル政府委員會議ニ於テ之ヲ決定スル事トナリタル趣ナリ尤モ諜報者ノ報告ニ依レハ汪精衛ハ曩ニ國難會議ノ際洛陽ニ於テ國民政府ハ滿洲問題解決スル迄南京ニハ復歸セスト言明セル趣ナリ

529 昭和7年5月9日 在広東須磨総領事代理より 芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戦協定成立後における胡漢民派、両広実力派の中国政局に与える影響について

広東 5月9日後発 本省 5月10日前着

第三三三號

當方面時局ニ關シテハ累次電報ニ依リ御承知ノ通陳濟棠歸廣後ノ態度依然曖昧ニシテ中國政局ニ一沫ノ暗影ヲ投シ居ル處諸般ノ情報ヲ綜合スルニ大要左ノ如ク觀測セラル

一、胡漢民ハ飽ク迄反蔣ヲ續ケンカ爲上海停戦協定成立ヲ切掛ケニ從來ノ方針通り黨部ヲシテ該協定ニ反對セシメ漸

四、之ヲ要スルニ政治的ニハ無定見ナル濟棠ハ自己ノ地歩ヲ如何ニモシテ、安定セシメン事ヲ依然眼目トシツツ百方智慧ヲ絞リテ當方面大小多數ノ失意政客ニ對シ時ニハ機嫌モ取ル等然ル可ク應酬シ暫ク時局ノ推移ヲ靜觀シ徐ニ最後の態度ヲ決セントスルモノノ如キカ故ニ種々ノ取沙汰ハ行ハレ居ルモノ今ノ處獨立政府ヲ樹立スルカ如キ急迫セル形勢ハ認メ難シ

尤モ當地政局ハ益々機微ヲ加ヘ油斷ナリ難キモ右不取敢御參考迄

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口ニ轉電シ、

次反蔣ノ空氣ヲ醞釀セシメントシ居ル一方鄧澤如伍朝樞等ノ大物ヲ廣西ニ派シテ陳濟棠ノ牽制策ヲ建テシメツツ孫科馮玉祥等トモ密接ナル關係ヲ作りテ南北兩方面ヨリ反蔣運動ヲ起サントスルモノノ如ク最近ハ或程度迄濟棠ヲモ引摺ルコトニ成功セル模様ナリ

二、廣東實力派

曩ニ蔣介石ト相當妥協氣運ヲ作レル濟棠ハ絀上ノ如ク胡漢民派ノ壓迫ニ依リ四圍ノ狀況上再ヒ本來ノ曖昧ナル態度ニ立歸ヘリタルカ彼ノ部下ニハ胡漢民派ノ策動ニ對シ心中不快ヲ感シ居ルモノ鮮カラス殊ニ同派カ十九路軍ヲ牽制セントスルヤ彼等ハ自衛上遂ニ海空軍ヲ改組シ地盤ノ維持ニ努メ居レルモ其餘波今尙去ラス加フルニ共匪ノ猖獗廣西派ノ牽制等モアリ彼ハ地盤ノ擁護上既ニ態度ヲ曖昧ニシ

三、廣西實力派

同派ハ由來獨特ノ立場ヨリ反蔣ヲ持續シ居ルモノナル

福州、厦門、汕頭、香港へ暗送セリ

530 昭和7年5月11日 在濟南西田総領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

両広方面の反蔣運動台頭に対する山東省政府の態度につき王実業厅长の内話について

濟南 5月11日前発 本省 5月11日後着

第一二〇號

本十日王實業廳長ノ本官ニ爲セル時局内話左ノ通り

一、廣東方面ハ陳濟棠ノ實力派ト胡漢民等ノ理想派トハ兎角圓滑ヲ缺キ居ルモノ大体兩廣派ハ上海停戦會議ノ調印ヲ切掛ケニ中央ニ對シ反對ヲ示シ北方ノ反蔣派ト策動シ反蔣行動ニ出テントスルカ如キ形勢無キニ非サルモ右ハ日本軍上海ニ駐屯シ國論ノ視線ヲ對外的ニ集ムル限り實現困難ナルヘク假令局部的ニ多少ノ動搖アリトスルモノ大動亂ヲ惹起スルコトナカルヘシ尤モ日本軍全部上海ヨリ撤兵ノ時期ニ至ラハ共產軍ノ活動ト相俟チテ支那ノ大内亂發生スヘシ此意味ニ於テ日本軍ノ上海駐屯ハ國內の大動亂

ヲ防止シ又日本軍ノ滿洲ニ於ケル活動ハ將來起ルヘキ國  
際的ノ禍亂ヲ未然ニ豫防スル次第ナルカ日本ノ行動ハ兎  
角餘リ積極的ナル爲世人ノ疑惑ヲ惹起シ滿洲問題ノ如キ  
モ在滿支那住民ヲシテ危惧ノ念ヲ抱カシメス安住ノ方策  
ヲ講セサル限り解決容易ナラスト思考ス

三、十九路軍ノ措置ニ關シテハ陳銘樞ノ斡旋ニ依リ蔣介石ト  
ノ間ニ了解成リ同軍ハ滬寧鐵道警備ノ名目ノ下ニ當分同  
方面ニ駐屯スルコトニ決セル模様ナリ元來汪精衛ト蔣介  
石トハ表面的ニ合作シ今ヤ兩人ハ中心人物タルカ如キ觀  
アルモ内部的ニハ必スシモ結合セリトハ認メ難ク汪ハ廣  
東派トノ提携ヲ無視スル次第ニ非サルモ廣東派ハ汪ヲ充  
分信用シ居ラス而シテ蔣介石ハ假令中央ニ於テ實力ヲ有  
ストモ蔣一人ニテハ中央ヲ保持シ難ク必スヤ胡漢民ニ非  
サレハ汪精衛ノ廣東派ト合作スルノ要アル困難ナル立場  
ニ在リ左リトテ反蔣派モ各派一致セルニ非ス陳濟棠ノ如  
キハ廣東ノ地盤保持ヲ唯一ノ目的トシ實力ヲ以テ反蔣行  
動ニ出テントスルハ僅ニ李宗仁、白崇禧、張發奎及閻錫  
山位ニ過キス又馮玉祥ハ汪精衛ト聯絡シ反蔣策動ノ意無  
キニ非サルモ何等實力無キ爲泰安ニ閑居シ當分ハ消極的

濟南 5月17日後発  
本省 5月17日後着

第一二二號

往電第一二二號ニ關シ

蔣伯誠來濟後韓主席ト山東省財政問題ニ付種々協議中ノ處  
本十七日ノ中國紙ニ依レハ韓ハ蔣伯誠ト協議ノ結果曩ニ省  
政府ニテ接收セシ鹽稅其他ノ國稅徵收機關全部ヲ中央政府  
ニ返還シ右代償トシテ中央ヨリ毎月六十萬元ヲ支給スルコ  
トニ決シ十八日中ニ各機關ノ交替ヲ了スル筈ニテ蔣伯誠モ  
十六日北平ニ赴ケル旨記載シ居レリ右ニ關シ昨十六日當地  
鹽務稽核所協理「クローレル」本官ヲ來訪ノ節右ノ事實ヲ語  
リ曩ニ接收セシ國稅機關ヲ中央ニ返還スル代リニ中央ヨリ  
毎月六十萬元並鹽務稽核所ヨリ八年額約二百萬元(月額十  
六萬元)ヲ省政府ニ交付スルコトナリ省政府接收中臨時  
ニ設置セシ官吏ノ如キハ(往電第二二號參照)廢止ノ豫定ナ  
リ云々ト内話セリ委細公信  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、青島、奉天、天津、漢口、廣東、南京へ轉電シ  
芝罘、牛莊へ暗送セリ

ノ外無キ状態ナリ

三、反蔣運動擡頭ニ伴ヒ山東省政府ノ態度ニ對シ巷間種々ノ  
謠言流布セラルル處現ニ蔣伯誠ハ蔣介石ノ命ニ依リ今當  
地ニ滞留シ丁惟芬(今春山東省主席ニ擬セラレタルコト  
アリ)モ當地ニ居レルカ丁ハ老國民黨ノ一人ナルモ政治  
上ノ手腕アル人物ニ非ス目下ノ時局ニ際シ山東省トシテ  
ハ兩廣派ニ策應シテ反蔣行動說ノ如キハ地勢其他ノ關係  
上不可能ニシテ依然從來通り表面中央ニ服從ノ態度ヲ保  
持シ實際ハ中央ト不即不離ノ態度ヲ執リ時局ノ推移ヲ靜  
觀シ居ル状態ナリ云々

支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、青島、奉天、天津、南京、廣東、漢口へ轉電シ、  
芝罘へ暗送セリ

531 昭和7年5月17日

在濟南西田總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

韓主席が蔣伯誠と協議の結果塩稅其の他國稅  
徵收機關全部を中央政府に返還しその代償に  
中央より毎月六十萬元支給方決定について

532 昭和7年5月20日

在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

國民政府の郵政業務に対し内外郵便關係者が  
不滿の旨岡田郵務官内話について

上海 5月20日後発  
本省 5月20日後着

第六九八號

二十日岡田郵務官ノ内話ニ依レハ最近南京政府ハ郵電事業  
ハ缺損續キナルコトヲ理由トシテ郵便從業員ノ臧首手當ノ  
廢止進級制度ノ改正ヲ行ハントシ又郵政從業員ニ對スル恩  
給基金等ノ郵政儲金ハ匯業局(一昨年支那政府ニ於テ外國  
人ノ干渉ヲ受ケサル機關ヲシテ郵政事務上最モ利益多キ爲  
替事務ヲ取扱ハシムル爲普通郵便局ヨリ分離セシメタルモ  
ノ)へノ保管換ニ依リ恩給制度ヲ不安ナラシムルニ至  
レニ依リ當地郵務從業員代表ハ國民政府ニ對シ反對運動ヲ  
行ヒ殊ニ郵政カ缺損續キトナレルハ匯業局分離ノ結果ナレ  
ハ之ヲ從來通併合方請願中ノ處政府側ニ於テハ手當及進級  
問題ニ付テハ從業者側ノ要求ヲ容レタルモ匯業局問題ニ付

テハ滙業局側(滙業局總辦ハ十九路軍秘書タリシ楊建平ナリ)ノ反對アリ頑トシテ應セス爲ニ従業員側ハ愈々二十一日ヨリ罷業ヲ以テ飽ク迄目的ノ貫徹ヲ計ラムトスルニ略々決定シ天津、南京、漢口、廣東邊リモ多分呼應スル筈ナルカ今回ハ工會ノミナラス高級職員モ之ニ加ハリ外國人郵務官モ近來待遇問題ニ付南京政府ノ遣口ニ不滿ナリシ事トテ同情的立場ヲ採ル筈ニテ相當長期「ストライキ」ノ覺悟ヲ定メ居レルカ之ニ對シ中央側ハ義勇隊及少年團ヲシテ差當リ郵便事務ヲ代行セシムル手筈ナル趣ナリ右ニ關シ我方トシテハ罷業實現ノ場合ヲ慮カリ民團及岡田郵務官トモ協議ノ上日本人關係郵便物ハ民團ヲ中心トシ過般事變中ニ於ケル取極取扱ノ例ニ依ルコトトスル筈尙右「ストライキ」計劃ノ裏面ニハ廣東派ノ策動アルヤニモ傳ヘラル

公使ニ轉報シ北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、廣東ニ轉電セリ

533 昭和7年5月24日 在廣東須磨總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 中国郵務従業員罷工の裏面に関するレジヤン

公使ヨリ上海へ轉報アリ度シ

534 昭和7年5月24日 在漢口坂根總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 中国郵務従業員罷工に関する内部事情につき

#### 福家郵務官の内話について

漢口 5月24日後発  
本省 5月24日後着

第三八一號

上海發閣下宛電報第七一〇號ニ關シ

約一箇月前當地ニ轉勤セル福家郵務官ノ本日本官ニ對スル内話ニ依レハ今次郵務従業員ノ罷工ハ劉書藩ノ郵便爲替貯局改革ノ失敗ニ依リ郵務局ノ蒙リタル缺損ノ結果郵務官ノ待遇惡化セル事(本年四月二十五日交通部令ヲ以テ郵務職員規程ヲ變更シ郵務官ノ進級年限制ヲ無視シ將來缺員無キ限リ昇給セサルコトトセルハ其主ナルモノナリ)並ニ郵務部内ニ經驗ナキ支那人ノ勢力近年擡頭シ人事行政甚タ突飛ニ趨リ情實多キニ至レルコト其他郵務缺損補充ノ爲ノ郵稅值上案カ甚タ杜撰ニシテ而モ従業員ノ利益ヲ考慮セサルコ

### ドル郵務官の内話について

廣東 5月24日後発  
本省 5月24日後着

第四〇二號

上海發閣下宛電報第六九八號ニ關シ

二十三日郵務官「レジヤンドル」ノ内話左ノ通

一、本件罷行ノ裏面ニ廣東派ノ策動アリト傳ヘラルルモ當方面ノ觀測ニ依レハ汪兆銘カ蔣介石ヲ困ラス爲(往電第三九八號)遣ラセタルモノト思ハルル外別段廣東側ト關係アルモノトモ考ヘラレス(尤モ事實當地代表二名カ各地ノ代表ト共ニ本件計畫ニ參加セルハ事實ナリ)寧口郵便關係幹部ニハ福建人多ク且從來彼等ニ對スル反感相當濃厚ナリシカ故ニ彼等ヲ追出サシメンカ爲ノ仕組トハ見ラレサルニ非ス

二、尙「ストライキ」開始方ニ關スル電報ハ上海邊ニテ差止メラレタルモノノ如ク當地ニハ未タ何等指令來ラス

三、目下ノ處當地ニ於テハ昨日頃ヨリ郵便貯金引出者増加セラル外別段平常ト異ラス

公使、北平、奉天、天津、青島、漢口、南京へ轉電セリ

ト等ニ端ヲ發セシモノニシテ今次ノ罷業ハ既ニ四月ヨリ計劃セラレ従業員全部ノ目的貫徹ノ爲全國的ニ罷業ヲ行フコトニ付郵務工會幹部ハ勿論是迄郵務工會員ノ罷工毎ニ制止的態度ニ出テタル「クラーク」以上ノ局員モ全國的ニ之ニ同情シ居リ形勢逆睹シ難キ趣ナルカ郵務部最古參タル英人「リツチ」ハ二十一日郵務總辦ニ任セラレタル黃乃權ノ招電ニ依リ二十三日夜赴寧セルカ「リ」ハ福家ニ對シ新總辦カ今次ノ騷動ニ手ノ下シ様ナク自分ニ相談セントセルモ今次罷業ノ解決ハ郵務部内ノ徹底的刷新ヲ要スヘシト語り漢口ニ於テハ上海、南京等ニ於ケル罷工風潮ノ如何ニ拘ラス妄ニ「イニシアチブ」ヲ採ルコトヲ避ケ度キ方針ナルモ萬一全國的ニ罷業ヲ決行スルコトトナラハ湖北郵政管理局管下各局モ當然之ニ加擔セサルヲ得サルヘク今回ノ罷工ノ動機ハ一九二七前ノ状態即チ外國人カ郵務部内ノ全權ヲ握リ支那人官吏ノ勝手ヲ許ササル事態ニ返スコトニアレハ其根抵甚タ深く而モ上下結束シ當局ニ反對セントスル點ニ於テ部内頭級外國人モ罷工ヲ支持シ居レハ問題ノ解決一層困難ナリト述ヘタル趣ナリ因ニ福家ノ觀ル所ニ依レハ當地ニ急ニ罷工ヲ行フ氣配ナキモ局員ハ他地方ノ情勢ニ深甚ノ注意

ヲ拂ヒ居レハ何時停頓ヲ見ルヤ計ラレサル有様ニ付本官ハ早速當地民團ニ命シ滿洲上海事件發生當初ニ於ケルト同様在留邦人ノ郵便物ヲ取纏メ日清汽船ニ託スルコト(今夜ノ襄陽丸ヨリ實行)並ニ到着郵便物ノ民團ニ依ル配達ニ決定シ夫々邦人ニ示達セシメ置ケリ  
往電第三七三號ノ通轉電、暗送セリ

535 昭和7年5月26日 在上海村井総領事より  
齋藤外務大臣宛(電報)

中国郵務従業員の罷工休止と復業決定について

上海 5月26日後発  
本省 5月26日後着

第七二六號(至急)  
往電第七二五號ニ關シ

本二十六日正午妥協取極調印セラレ午後一時ヲ以テ罷業休止ヲ聲明シ明二十七日ヨリ復業スルコトニ決定シ其旨各地郵便局ニ打電セラレタル趣ナリ

尙取極内容ニ付岡田ノ探知スル所ニ依レハ政府代表、郵務従業員代表及當地有力商人ヨリ成ル仲裁委員會ヲ設ケ郵務

護ノ爲ノ同軍敬遠策ト看ラレ當初安徽ニ駐封セシムル計畫ナリシ處偶々福建省内ニ共匪跳梁セルヲ幸ヒ剿共ノ好題目ヲ以テ半バ威壓のニ之ヲ入閩セシメタル次第ナリ

(一) 一方十九路軍將領トシテハ上海ニ於ケル生死奮闘モ徒ニ陳銘樞一人ノ榮達ヲ見タルニ過キス軍側トシテハ何等得ル處無く却テ軍費ヲ削減(五月二十五日附公第一五〇號參照)セララルル結果トナリ中央並陳銘樞ニ對シ鮮カラス不滿ヲ抱キ乍ラ所詮之ト拮抗見込無キ處ヨリ地盤トシテ不服ナル福建落ノ腹ヲ定ムルニ至リタルモノノ如シ

(二) 次ニ福建軍閥カ十九路軍ノ入閩ヲ喜ハス左リトテ之ヲ阻止スル力無キハ明カナル處十九路軍トシテモ財源乏シキ福建ニ於テ充分ノ軍費ヲ徵求スルコト到底不可能ナルノミナラス中央、廣東何レモ強テ之ヲ援助セサル可キヲ以テ同軍ハ自存上實力ヲ以テ東江方面へ進出スルノ外無カル可ク偶々廣東ニ於ケル海、空軍改組問題紛糾シ居ル折柄先ツ陳策一派ヲ引入ルルト共ニ特ニ同軍ト親善關係アリト見ラルル空軍(張惠長)ト内應シ或ハ陳濟棠打倒ヲ策スルニ非スヤトモ觀測セラレ十九路軍入閩後ノ西南時局ハ茲許暗雲低迷ノ觀無キニ非ス

員側ノ主張ヲ考究セシムル筈ニシテ政府側ニ於テハ航空公補助金ハ五ヶ年ノ契約期間切レ次第止ムルコト、貯金滙業局開設以來郵務員以外ヨリ採用シタル局員ハ成ル可ク二ヶ月以内ニ罷免シ郵務員ヲ以テ之ニ代ヘ今後モ同局員ハ郵務員ヲ使用スルコトトシ事實上合併ノ實ヲ擧クル事ヲ大體承認シタル趣ナルモ外部ニ對シテハ政府側ノ面子モアリ單ニ特別委員ヲ設ケ具體策ヲ考究スル事トナレル旨發表スル筈ナル由  
轉電先、冒頭往電ノ通及芝罘

536 昭和7年6月8日 在香港吉田総領事代理より  
齋藤外務大臣宛(電報)

十九路軍の福建移駐は蔣介石の自己地盤擁護のための敬遠策と觀られる等の情報について

香港 6月8日後発  
本省 6月8日後着

第一〇一號

當館謀報者ノ齋ス處ニ依レハ左ノ通り  
(一) 十九路軍ノ福建移駐ハ蔣介石ノ企ミタル自己ノ地盤擁

(四) 要スルニ蔣ハ十九路軍移駐ニ依リ地盤擁護ト同時ニ陳濟棠牽制ノ一石ニ鳥ヲ策セルモノノ如シ  
右聞込ノ儘  
在支公使ヨリ上海、南京ニ轉報アリタシ  
在支公使、北平、廣東ニ轉電セリ

537 昭和7年6月9日 在廣東須磨總領事代理より  
齋藤外務大臣宛(電報)

陳濟棠を中心とした兩広政局の推移に関する観測について

廣東 6月9日後発  
本省 6月9日後着

第四三〇號  
往電第四一七號ニ關シ

十九路軍ノ入閩ニ伴ヒ最近各方面ノ謠言錯綜シ居ル處陳濟棠ヲ中心トスル南支時局ハ大體左ノ如ク觀測セラル  
一 廣西派ハ其ノ後靜觀的態度ヲ持シ居ル處右ハ濟棠討伐ノ好名目無キト各方面トノ聯絡不十分ナルニ基因スル由ナルカ廣西派モ今ノ處ハ濟棠ヨリ月々軍費ヲ搾リ取ラントスル

魂膽ニテ一面麥煥章ヲ當地ニ常駐セシメ各方面ト折衝セシムル等稍焦リ氣味ニ硬軟兩策ヲ用ヒ居ルモ暫時不即不離ノ態度ヲ執リ充分成功ノ見込付カサル限り俄ニ軍事行動ヲ起シテ往年ノ失敗ヲ繰返スカ如キコト非サルヘシ

三陳策、張惠長ノ反陳濟棠運動ハ自己ノ勢力挽回ノ爲ニテ張發奎ノ余漢謀使喉説ト同様他ノ有力ナル各派ト聯絡セサル限り濟棠ニ對シ何等決定的壓力ヲ加フルコト能ハス而シテ前者ハ十九路軍ニ後者ハ廣西派ニ合流スル可能性多シ

三十九路軍ハ素々濟棠ノ爲態良ク廣東ヨリ追出サレタル經緯アルヲ以テ折アラハ廣東ヲ奪還セントスル魂膽アリ入閩後モ濟棠ヨリ相當ノ軍費ヲ補助セサル限り

機ニ乘シテ東江地方ヲ窺ヒ陳銘樞ノ親戚ニ當ル香翰屏等ヲ指嚇シテ内應セシメントスル計畫アルカ如キモ之亦濟棠打破ノ名義ナキノミナラス今ノ處兩者ヲ打テ一丸トナシ陳銘樞ヲ迎ヘントスルカ如キハ全然想像スルコト能ハス

蔣駐日公使の新聞記者への談話について

上海 6月17日後発  
本省 6月17日後着

第九六七號

蔣公使十六日南京ヨリ(脱?)新聞記者トノ會見ニ於テ左ノ通語レル趣ナリ自分ハ東京ニ歸任後ハ極力日本ノ政策ノ誤レル事ヲ力説スヘシ東北失地ノ回收ニ關シテハ聯盟特別總會ノ決定ヲ待タサルヘカラサルモ聯盟ニシテ満足ナル解決ヲ講シ得サルニ於テハ支那ハ軍事行動ヲ用意セサルヘカラス日本カ滿洲國ヲ承認スル事ハ九國條約違反者トシテ日本ノ真相ヲ曝露スル事トナルヘシ露支國交ノ回復ニ關シテハ日露兩國ノ利害ノ衝突ニ鑑ミ此ノ際之ヲ回復スル事カ支那ニ取り有利ナリトノ意見ニ一致シ居レリ尙自分ハ月末ニハ歸任ノ豫定ナリ云々

北平、奉天、南京、廣東ニ轉電セリ

539 昭和7年6月25日

在南京上村総領事代理より  
齋藤外務大臣宛(電報)

行政院會議において従来の軟弱外交を改め上

四要スルニ濟棠カ柄ニモナク絶大ナル勢力ヲ擁シ兎角我利ニ急ニシテ殆ント私腹ノ爲ニノミ策謀シ居ルニ對シ何レモ不滿ヲ抱キ居ル處各派カ蔣介石ノ意ヲ受ケテ濟棠討伐ニ當ルヘシ等トハ南京側ノ宣傳ニ過キス又サシテ相互間ニ連絡アルモノトモ思ハレス旁々何レモ自家地盤ノ確保擴張ヲ主眼トスルカ故ニ濟棠ヨリ案外氣前ヨク軍費ヲ支出センカ内亂防止等ノ好題目ヲ見付ケテ元ノ鞘ニ收マルヘク濟棠ハ茲許地盤主義ニ終始シ各派ノ要求ヲ眺メ値切り得ル最小限度ヲ待望シツツ滿ヲ持シテ放タサルノ姿勢ヲ採リ飽ク迄ヅルク構フル底意ナレハ十九路軍入閩後ト雖時局ハサシテ際疾キ變轉ヲ見セス濟棠ヲ中心トシ緩慢ナル進展ヲ遂フモノト思料セラル

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、厦門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送セリ

538 昭和7年6月17日

在上海村井総領事より  
齋藤外務大臣宛(電報)

滿洲国承認問題および中ソ復交問題に関する

海および滿洲問題にも強硬な自主的手段を執る旨決定との民生報報道について

南京 6月25日後発  
本省 6月25日後着

第四八九號

二十五日ノ民生報ハ二十四日ノ行政院會議ハ廬山ニ於ケル對日強硬外交方針ノ決定ニ基キ具体案ヲ討議セルカ從來ノ軟弱外交ニ依ル失敗ニ鑑ミ今後ハ上海及滿洲問題モ最モ強硬ナル自主的手段ヲ執ルコトニ決定セル旨報道シ居レリ尙右會議ニ於テ外交部長ハ滿洲國ノ郵政權破壊ニ關シ日本ニ嚴重抗議セルコト及露支復交問題ニ關シ二十三日莫德惠ヨリ交渉經過ノ報告ニ接シタル旨披露セル趣ナリ

支、北平、奉天、長春、哈爾濱へ轉電セリ

540 昭和7年6月27日

在中国守屋臨時代理公使より  
齋藤外務大臣宛(電報)

蔣駐日公使一行の随員として渡日予定の王長春が同公使の対日交渉腹案につき内話について

付記 八月二十四日、内田外務大臣・在本邦蔣中国

上海 6月27日後發  
本省 6月27日後着

第一〇一六號(極秘)

往電第一〇〇四號二關シ

蔣作賓ハ陸海軍武官各一名ノ外隨員ノ名義ニテ王長春ヲ同伴シ七月上旬上海發渡日ノ豫定ナル處廿七日王カ他用來訪ノ際有野ノ問ニ對シ極秘ノ含トシテ語ル處ニ依レハ蔣ハ着任後先ツ東三省問題解決方ニ付日本政府ト折衝ヲ試ムル豫定ナルカ其ノ腹案トシテハ東三省ニ於ケル日本側ノ條約上ノ權利ヲ確認スルコトヲ儀以下滿洲國ノ官吏ハ其ノ儘繼續任用スルコト全國ニ於ケル排日運動(排日教科書ヲ含ム)ヲ禁止スルコト等ノ各條件ノ下ニ東三省ニ對スル支那側ノ主權承認方ヲ日本ニ要求スル方針ニテ之カ下交渉ニ坂西中將ノ斡旋ヲ求ムルコトトシ其ノ連絡係リトシテ同人カ同行スルコトトナリタリトノコトナリ  
尙右ハ日本政府ニモ坂西中將ヘモ絶對ニ知ラササル様セラレ度キ旨王ヨリ繰返シ申出タル由ニ付御含アリ度シ

右演說ヲ十分御研究ノ上何等解決方法アラハ御示シヲ乞フ我方ノ立場ハ既ニ屢々聲明セラレ明瞭ニナリ居レルカ明日モ詳細ニ論及スル心算ナリ

公使

右ニ對シ公使ハ何等反問スル所無ク單ニ首肯セルノミニテ更ニ第二問ヲ笑ヒナカラ述フル處ニ依レハ之モ新聞ノ記事ナルカ武藤大將ハ滿洲ニ赴任ノ上ハ基條約ヲ日滿間ニ締結セラルヘシトノコトナルカ果シテ事實ナルヤ更ニ其ノ内容ヲモ伺フコトヲ得ハ幸ナリ

大臣

或兩國間ノ交渉問題ハ必要ナキ限り其ノ交渉ノ有無及内容ヲ第三國ニ示スコトハ國際慣例上無キコトニシテ貴國ニ於テモ同様ノ慣例ナリト思フ折角ノ御質問ナレトモ答辯ハ御断リスルノ外無シ

右ニ對シテモ公使ハ反問スル所無ク暑中煩シタリトテ謝意ヲ述ヘテ引取りタリ

541 昭和7年6月30日

在広東須磨總領事代理より  
齋藤外務大臣宛(電報)

北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、廣東、聯盟ニ轉電シ上海ニ轉報セリ

(付記)

\*昭和七年八月二十四日午前十一時蔣公使來談丁紹級通訊公使

近頃新聞紙ノ報スル處ニ依レハ閣下ハ不日議會ニ於テ演說セラルル由ニテ其ノ内容マテモ掲載シ第一閣下ハ日華間ノ問題ハ日華兩國間ニ於テ交渉スベキコト第二日華及滿洲國ハ互ニ相協力シ其ノ実力ヲ充シテ東洋ノ平和ヲ維持スヘシトノ主旨ヲ述ヘラルルトノコトナルカ第一ノ点ハ自分ニ於テモ至極同感ニシテ何等異議ヲ有セサルカ滿蒙問題ニ就テハ大ニ趣ヲ異ニシ今日何等カ解決ノ方法ヲ講スルコト緊要ナリト思フ就テハ閣下ニ於テ解決方法ヲ内示セラルルコトヲ得ハ幸ナリ云々

大臣

新聞紙カ勝手ノ記事ヲ掲載スルコトハ有勝ノコトニシテ其ノ記事ニ基ク御質問ニ對シ彼是御答ヘスル譯ニ非サルモ自分ハ明日議會ニ於テ滿蒙問題ニ就キ詳細演說スル心算ニ付

蔡廷鍇の広東來訪が対日空気を悪化させる懸念あるため林広東省主席と排日取締り方懇談について

広東 6月30日前發  
本省 6月30日後着

第四七〇號

往電第四六八號ニ關シ

蔡廷鍇<sup>(蔡)</sup>ノ來廣ニ伴ヒ對日空氣惡化ノ懸念アリタルヲ以テ二十九日林雲陔ヲ往訪シ排日取締ニ關シ篤ト懇談セル處林ハ當地當局ニ於テハ専ラ力ヲ剿匪ニ盡シ民衆ノ抗日運動ヲ漸次緩和スル方針ナルヲ以テ蔡廷鍇<sup>(蔡)</sup>等ノ來廣アルモ絶對越軌の行動ニ走ラシメサル様指導シ居ルニ付御安心相成度ク又蔡ハ人氣者ナレハ民衆團體ニ於テハ種々歡迎ノ催等アルカ如キモ爲ニ反日空氣ヲ再現セシムルカ如キ事事實ナカル可ク兎モ角當局トシテハ漸次民衆ノ氣分ヲ和クル様力メ居ルニ付貴官ニ於テモ今後トモ出來得ル限り御協力アリ度シト述ヘ尙時局ニ關スル本官ノ質問ニ對シ左ノ通語レリ

一蔡ハ兩三日滞在ノ上福建ニ赴ク筈ノ處蔣光鼐ハ病氣ノ爲郷里ニ靜養中ニテ本日來廣セス又福州行モ未定ナルカ

(冒頭往電蔣ノ來廣ハ誤)綏靖主任代行ハ尙不明ナリ  
 二、孫科ハ來廣セス其ノ儘「エンプレス、オブ、シヤパン」  
 ニテ上海ニ引返シ時局ヲ靜觀スルコトトナリ陳策モ話ノ  
 如何ニ依リテハ西南委員會ノ命令ニ從ヒ隱退スル模様ナ  
 リ  
 三、唐紹儀ノ西南政務委員辭職説及北上説ハ何レモ謠言ナル  
 カ伍朝樞ノ海南島特別區行政長官就任ハ同地ノ共匪剿滅  
 迄延期ノ外ナカル可シ(無期延期ノ事ナリ)  
 支、北平、南京、福州、厦門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送セ  
 リ  
 支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

542

昭和7年7月12日

在広東須磨總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

須磨離任に当り林広東省主席と日中關係に關  
し意見交換について

広 東 7月12日後発  
本 省 7月12日後着

第四九二號

ルヘキ事件アリ即チ對英經濟絶交ニシテ同運動ハ殆ト戰  
 争以上ノ意氣込ニテ行ハレ一年九ヶ月繼續セラレタルカ  
 「ランブソン」「クレメンテ」兩人ノ努力ニ依リサシモ猛  
 威ヲ逞フセル經濟絶交モ一朝ニシテ止ミタリ遣り方ニ依  
 リテハ廣東人ノ氣分ヲ轉換スル事極メテ容易ナルヲ知ル  
 ニ足ルヘシト述ヘタリ

四、本官ヨリ然レ共日支ノ關係ヲ論スルニ當リ日本トシテ尙  
 別ニ考慮スヘキハ貴國ノ内政問題ニシテ此ノ爲常ニ國交  
 ニ支障ヲ來ス事アラリト述ヘ暗ニ海軍問題、陳濟棠ノ  
 地盤主義、胡漢民ノ態度等ヲ仄シタル處林ハ右ノ御懸念  
 ハアルヘキモ内政問題ト目下ノ日支問題トハ自ラ別箇ノ  
 モノナレハ日本トシテハ深ク支那ノ内政問題ニ懸念セラ  
 ルル事無ク専ラ前述ノ大局上ノ觀點ヨリ行動セラルル事  
 望マシト答ヘタリ

右當方面對日空氣ノ一端トシテ特ニ電報ス  
 支、奉天、北平、天津、濟南、青島、南京、漢口、福州、  
 厦門、汕頭へ轉電セリ  
 支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

支那側ニ於テハ十一日林雲陔劉紀文兩人ノ名ヲ以テ本官ノ  
 爲送別宴ヲ催シタルカ許崇清何肇等各方面ノ人物モ出席シ  
 宴後林雲陔トノ間ニ左ノ如キ談話ヲ交換セリ  
 一、實ハ本日御招宴申上タルハ貴官ノ離任ニ臨ミ一言申上度  
 キ事アリ他人ヲ交ヘス御話シスル次第ナリト前置シ客年  
 滿洲事件以來當地ノ人心頗ル激化シ間々不敬事件等起レ  
 ルモ貴官ノ努力ニ依リ事件ノ擴大ヲ防キ得タルハ幸ナル  
 カ貴官上海ニ赴任後モ日支萬般ノ關係ニ於テ常ニ寬大ナ  
 ル態度ヲ以テ大局ヨリ御措置相成度シト述タリ

二、依テ本官ヨリ實ヲ申セハ上海事件ニ於テ日本軍ニ對抗セ  
 ル十九路軍ハ廣東出身ナル外上海協定反對ヲ表明シ居ル  
 モ亦廣東ニテ自然日本人ノ廣東ニ對スル感情ハ甚タ面白  
 カラサルヲ以テ廣東側カスノ如キ態度ヲ繼續セハ日支間  
 ノ關係ハ尙憂慮ニ堪ヘサルモノアリ一例ヲ舉クレハ他地  
 方ニ於テハ排日貨取締ヲ嚴ニシ居ルニ反シ當地ニ於テハ  
 今尙執拗ニ繼續セラレ居ルカ如キ之ナリ故ニ貴方ニ於テ  
 モ充分大局ニ眼ヲ付ケラルル様致度シト述ヘタリ  
 三、林ハ尙廣東人ハ御承知ノ通反撥心頗ル強ク此ノ點到底他  
 地方ノ人士ノ比ニアラサルカ茲ニ貴方ニ取り御參考トナ

543

昭和7年7月22日

在中国矢野大使館參事官より  
内田外務大臣宛(電報)

國民政府当局者の現下内外政に關する内話に  
ついて

北 平 7月22日後発  
本 省 7月22日後着

第三八三號(極秘)  
吉田ヨリ  
第二七五號

呢懇ナル南京政府當局者ノ二十一日内話左ノ通り  
 一、政府ハ顧維鈞ヲ委員ニ伴ヒ壽府ニ派スル方針ナリ又顧ヲ  
 駐佛公使ニ今任命セハ政府カ委員會ニ眞面目ナラストノ  
 誤解生センヲ惧レ當分見合ハセ居レリ  
 二、日支問題解決ニ付汪兆銘ハ成案ナキ様ナリ  
 三、外交總長ニハ蔣介石ハ顧維鈞ヲ推シ汪精衛ハ國民黨員タ  
 ル郭泰祺ヲ望ミ從テ何レモモノニナラス羅文幹ハ厭々々  
 ラ同總長ヲ兼不居レリ  
 四、露支關係ニ關シテハ南京政府中極左ノモノハ兩國間ノ同  
 盟ヲ提議セルモ汪兆銘等ハ贊成セス露ハ不侵略條約ノ締

結ヲ望ミ支那ハ外交關係克復ヲ欲ス滿洲國不承認ハ何レヨリモ提議セス

五、政府ハ張學良ヲ力ニテ北平ヨリ追出ス考ヘナキモ若シ其ノ去リタル場合ニハ汪精衛ハ閻錫山ヲ其ノ後ニ据ヘントシ蔣ハ閻カ敵ナリシ關係上彼ヲ好マス韓復榘ヲ望メリ  
六、蔣介石ハ實ハ徹毒ニ罹リ居リ骨ヲ犯シ時々腦ヲ病ミ上海ヨリ態々醫師ヲ招キシシ位ニテ健康宜シカラス  
支、奉天、南京、濟南、長春へ暗送セリ

544 昭和7年7月31日 在中国矢野大使館參事官より  
内田外務大臣宛(電報)

北平政務委員全体會議の模様に関する周作民の内話について

北平 7月31日後発  
本省 7月31日後着

第三九七號

北平政務委員全体會議ハ二十九日學良及各委員ノ外來平中ノ韓復榘、商震、宋哲元、傅作義其他各將領ヲ加ヘ李石會主席ノ下ニ開會セラレタルカ右ニ列席セル周作民カ三十日

原田ニ爲セル内話左ノ通

一、同大會ハ始メ各委員間ニ意見ノ交換アリタル後韓復榘及張、伯苓、李石會ヨリ河北ノ前途ニ關シ速ニ自救ノ辦法ヲ講シ一致シテ外侮ニ當ルヲ要ストノ意見出テタルモ結局大會ヨリ右趣旨ノ宣言ヲ發スル事トナリ王樹翰等ヲシテ起草セシメ三十一日大會ニ提出ノ上正式發表ノ筈  
二、同會議ニ於ケル學良ノ態度ハ極メテ穩健ニシテ終始意思表示ヲ爲ササリシカ一般ノ空氣ハ極メテ緊張シ過激ニ巨ル議論モ出テサル程ナルカ今後熱河問題ノ進展如何ニ依リテハ大勢ハ前記學良ノ消極的態度ヲ變改セシムル事無キヲ保シ難シ  
支、南京、廣東、漢口、青島、濟南、天津、奉天、長春へ轉電セリ

545 昭和7年8月8日 在天津桑島總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

汪兆銘よりの引責辭職方勸告電報に関する張學良の新聞記者への談話について

支、奉天、北平、長春、南京、濟南、青島、漢口、廣東へ轉電セリ

第三一六號

天津 8月8日前発  
本省 8月8日後着

汪兆銘ハ六日附ヲ以テ突然行政院長ノ辭職ヲ電請スルト同時ニ張學良ニ對シ速ニ引責辭職シ罪ヲ國人ニ謝スヘシトノ勸告電ヲ寄セタルカ學良ハ右通電ノ結果人心ノ動搖スルヲ虞レ特新聞記者ヲ招キ大要左ノ如キ談話ヲナセリ

六日附汪院長ノ電報ニ接シ眞ニ痛心ニ堪ヘス外毎日ニ急ナル一髮千鈞ノ秋ニ際シ國人相共ニ國難ニ當ルヘク其間毫モ異見アルヘカラス汪先生ニシテ余ノ辭職ヲ欲セハ宜シク直言セラルヘシ何ソ汪自身迄辭職ノ要ヤアル更ニ該電文中何ノ必要アリテ事實ニ遠キ語ヲ引用セラレタルヤ九、一八以來余一己ノ生命財產ハ之ヲ拋擲シ考慮スル處ナシ何ソ今日其去留ヲ論センヤ只治政治安ノ重大責任ニ顧ミ自由ニ下野シ得ス現ニ所屬部署ハ何時ニテモ引繼ノ準備ヲ終ヘタリト雖モ治安ノ危急ヲ顧ミス恣ニ辭職シ能ハサルノミ之予ノ來直ナル心理ニシテ又終始一貫敢テ變ラサル處ナリ國人ハ共ニ之ヲ諒セラレヨ云々  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

546 昭和7年8月9日 在上海村井總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

汪兆銘辭職経緯に関する共產系新聞新大陸日報の報道振りについて

上海 8月9日後発  
本省 8月9日後着

第九〇六號

往電第九〇二號ニ關シ

汪精衛ノ辭職ハ果然時局ニ一大波紋ヲ捲起シツツアリ政局ノ歸趨俄ニ逆睹シ難キ處汪ハ各方面ノ慰留ニ拘ハラス復職セス又張學良モ下野ヲ表明シタルモ恐ラク實現セサルヘシト見ル向多ク汪ノ後任ニハ蔣最近ノ親日的傾向ニ顧ミ日本側ニ知人多キ居正最モ有望ナリ等早クモ一部消息通ノ間ニ取沙汰セラレ居レリ汪今同辭職ノ原因ニ關シ曩ニ蔣ノ「フアツシヨ」運動ノ正体ヲ素破拔キ蔣派ヲ狼狽セシメタル當地共產系小新聞新大陸日報(社長潘問夫)ハ八日大要左ノ如

ク報道シ居ルカ右ハ本件経緯ノ一觀察タルヤニ思考セララルニ付御参考迄

一、一時的の苟合ニ過キサリシ蔣、汪ノ合作モ蔣カ中國「フアシスト」ヲ組織シテ政敵暗殺ヲ計畫スルヤ汪モ自己防衛ノ必要ニ迫ラレ改組派ヲ復興シテ抵抗セントセリ此事蔣及其一味ノ激怒ヲ買ヒ兩人ノ暗闘日毎ニ甚タシクナレリ

二、汪ハ責任内閣ノ首班タル(モ)政治上一切ノ措施ハ必ス蔣ノ承認ヲ要シ今回ノ張學良問題ノ如キモ汪ヨリ豫メ蔣ニ相談ヲ持掛クルヤ蔣之ヲ取上ケス汪ノ責任内閣モ完全ニ其無力ヲ暴露シ張學良ハ之ニ乘シ勝手ノ要求ヲ持出シ汪ヲ困惑セシメタリ

三、從來軍事委員會ト行政院ハ宛然ニ重政府ノ觀ヲ呈シ汪ハ軍事ニ對シテハ容喙ヲ許サレス今次熱河問題ノ發生スルヤ汪ハ行政院ノ名ヲ以テ張ニ出兵ヲ命シタルモ

張ハ勳カサルノミカ蔣介石ニ報告濟ナリトノ權モホロロノ挨拶ニ汪怒リテ累次將<sup>(蔣カ)</sup>ニ對シ張ノ免職方要求セリ然ルニ却テ蔣ハ汪カ政府ノ名義ヲ以テ張免職ノ事等アリテハ一大事ト先手ヲ打チテ急遽張群ヲ赴平セシメ張學良ヲシテ河北將領會議ヲ召集シ汪ニ示威セシムルト共ニ軍費ヲ要

ヲ藉リテ辭職スルニ至レルモノナリ云々

冒頭往電ノ通り轉電及轉報セリ

547 昭和7年8月9日 在濟南西田總領事より 内田外務大臣宛(電報)

汪兆銘辭職問題に関する韓主席の内話について

濟南 8月9日後発 本省 8月10日前着

第二〇八號

汪精衛ノ辭職問題ニ關シ八日韓<sup>(マヤ)</sup>首席ハ本官ニ對シ

一、汪ノ通電ハ接到セル處同人ハ學良ヲ共ニ辭職セシメントノ趣旨ニシテ右ハ張ノ軍費要求ヲ主因トセル模様ナルカ他ニ遠因アル様思ハル汪今回ノ行動ハ突然ナルカ如キモ右ニハ多分ニ政治的作用ヲ含メルモノト思料セラル學良トシテハ表面的辭職ハ兎モ角實際的ニハ輕々ニ辭職スル事ナカルヘク汪ハ何レ各方面ヨリ慰留ヲ勸告セラレンモ、サリトテ學良ノ辭職ヲ見サレハ汪ノ留任スル事モ至難ナルニ付何レ相當反響アルモノト思ハルトテ汪トノ關係ノ有無ニハ明言ヲ避ケ居レリ(恐ラク韓ハ蔣介石及汪

求セシメ且張ハ會議中韓復榘、徐永昌等ニ或種ノ權利ヲ分與シ形式上河北將領ノ團結ヲ示セリ汪ハ軍費調達方ニ付宋子文ニ計リタルモ宋辦法ナシトテ取合ハス汪ノ進退谷マル

四、汪ハ南京ニアリテ黨務總括ノ地位ニアリト雖黨務上ノ大權ハ事實陳立夫ノ手ニアリ其獨斷專行至ラサルナク汪之ヲ蔣ニ訴フルモ蔣採上ケス 殊ニ最近

(一)蔣ハ公然人ヲ派シ胡漢民、孫科及居正ニ對シ行政院院長ニ就任方交渉シ又孫科ニ鐵道部長、孔祥熙ノ實業部長復活説ヲ流布シ汪及其一派ノ顧孟餘、陳公博ニ對シ如何ニモ出テ行ケガシノ宣傳ヲ爲シ居リ

(二)蔣ハ漢口、九江間ヲ往來シ一向歸京セントハセス一切ノ難問題ヲ汪ニ押付ケ汪ヨリ蔣ノ意見ヲ徵シ來ルモ蔣答ヘス熱河問題發生スルヤ廬山會議再會ヲ提議スレトモ蔣是ヲ容レス

(三)中國「フアシスト」團ノ汪ニ對スル迫害愈加ハリ身邊危險トナレルヲ以テ政權ニ未練アリ隱忍半歳ニ及ヘル流石ノ汪モ遂ニ胡漢民ト同一運命ニ陥ルヲ慮レ張ノ問責ニ名

精衛兩者ニ然ル可ク聯絡アルモノト思料セラル

三、更ニ本官ヨリ北方各將領及地方人士ノ張ニ對シ批判ヲ尋ネタルニ張トシテハ苦シキ立場アランモ一言ニシテ云ハハ「不<sup>(ハ)</sup>好(宜シカラス)ナリト述ヘ張學良ノ北平ニ在ルニ對スル危險如何ト反問セルニ付學良ハ義勇軍其他ヲ操縱シテ滿洲ノ擾亂ヲ計ル事ハ同人ノ立場ハ兎ニ角結果ニ於テ役立ツモノトハ思ハレス日本トシテモ學良無クハ熱河問題乃至ハ京津カ擾亂スル事無カルヘシトテ餘リ欲セサル處ナリト然ル可ク應答シタルニ韓ハ自分ハ山東ハ勿論京津方面ニ中間無用ノ衝突ヲ欲セスト述ヘ兎ニ角中央トシテハ本件ニ關聯シ張學良問題モ何トカ處理スル事ト成ル可シ云々ト内話セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ 支、北平、青島、奉天、天津、南京、漢口、廣東ヘ轉電セリ 芝罘、坊子、張店、博山ヘ暗送セリ

548 昭和7年8月10日 在上海村井總領事より 内田外務大臣宛(電報)

汪兆銘は平津地方への日本軍侵入阻止のため  
蔣介石に対し張學良下野方を要請の目的で唐有  
壬を漢口派遣について

上海 8月10日後発  
本省 8月10日後着

第九〇七號

汪精衛秘書唐ユウジンハ九日朝密ニ當地發漢口ニ赴キタル  
趣ナルカ八日唐ト會見セル山本英<sup>?</sup>ニカ九日館員ニ對シ語レ  
ル處ニ依レハ汪ハ飽ク迄張ノ下野ヲ實現セシメン意向ヲ有  
シ居リ從テ唐ノ赴漢ノ用向ハ汪ニ代リ蔣介石ニ對シ  
(一)平津地方ニ對スル日本軍ノ侵入ヲ免カルル爲ニハ一日モ  
速ニ張學良ヲ下野セシメ其存在ニ依リ動モスレハ激化セン  
トスル日本側感情ヲ緩和スル必要アルコト  
(二)河北方面ノ實情ヲ審ニシ張ノ軍費要求ノ不當ナルコト及  
此ノ點宋子文モ同意見ナルコト

(三)張下野後ハ其部下ニ于學忠、王樹常等ノ實力者アルモ彼  
等ハ張ト同罪ナレハ宜シク中央ヨリ何應欽、朱培德又ハ張  
群ノ内一人ヲ派シ河北ノ治安維持ニ當ラシムルヲ可トス  
(此點蔣ノ實力ヲ南北ニ兩分シ他日反蔣舉兵ノ際ニ備ヘン

針について

付記 外務省作成(日付不明)

「南京政府ノ債務整理促進方ニ關スル件」

第七ノ一八號

昭和七年八月十日

(接受日不明)

横濱正金銀行

副頭取 武内 金平

外務省

亞細亞局長 谷 正之殿

南京政府債務整理促進方ニ關スル件

本件ニ關スル倫敦支店來信寫ハ去月七日付第七ノ一四號弊  
信ヲ以テ御送附申上置候處右ニ關シ本日別紙寫ノ通り上海  
支店ニ指圖致候間其寫茲許同封供貴覽候敬具

(別紙)

第七ノ五九號

昭和七年八月十日

頭取席借款課

上海支店

トスル用意ニ外ナラサル由)ル旨ヲ力説シ張ノ免職方ヲ迫  
リタリトノコトニテ(三)ノ點ニ付山本カ唐ニ對シ汪ハ何故ニ  
率直ニ韓復榘ナリ閻錫山ナリヲ推薦セサルヤト擲揄反問シ  
タルニ唐ハ支那ノコトハ左程短刀直入ニハ行カヌモノナリ  
トテ暗ニ時期至ラハ左様仕度キ意向アルヲ匂ハシ居リ唐ノ  
口吻ヨリ張ノ下野ハ北方反蔣運動ノ進展從テ汪ノ北方政權  
樹立ニ一步ヲ進ムルモノナル様ノ印象ヲ受ケタル趣ナリ尙  
其際唐ハ汪トシテハ天津ノ安全サヘ確保サヘスレハ熱河放  
棄モ已ムヲ得ストナシ居リ日本側カ張ニ對シヨリ強硬ナル  
手段ニ出テラレンコトヲ希望シ居ル旨漏ラシ居タル由ナル  
カ此ノ點ハ他日汪再起ノ際日本側ノ好感ヲ迎エントシタル  
下心ヨリ出テタルノ言葉カト察セラル  
北平、奉天、天津、濟南、青島、漢口、南京、廣東へ轉電  
シ支へ轉報セリ

549 昭和7年8月10日

武内(金平)横濱正金銀行副頭取より  
谷亞細亞局長宛

四国借款团英國側代表よりの債務整理促進方  
國民政府への共同申入れ提案に対する対応方

支配人席 御中

南京政府「内外債務整理委員會」ノ  
債務整理促進方ニ關スル件

掲題ニ關スル去六月十八日付倫敦支店ヨリ當課宛書信参照  
相成度右書信ニ依レバ香上銀行ハ從來屢次南京政府財政部  
ニ對シ英國側對支借款延滞元利金ノ支拂方ヲ要請シタルモ  
財政部ハ其都度「内外債務整理委員會」云々ニ藉口シテ其決  
濟ヲ遅延シツ、アルノ現状ニ鑑ミ、貴地英國團體代表ニ對  
シ日米佛團體代表ト協議ノ上、財政部ニ對シ四國團體ハ内  
外債務整理委員會ノ事業ニハ多大ノ利益關係ヲ有スル事、  
及其整理事務ニ就テハ援助ヲナス用意アル旨ヲ述ベ債務整  
理ノ促進ヲ計ル様指圖スルニ付日本側ニ於テモ異議ナクバ  
同一行動ヲ採ラレテハ如何ト申越候由ニ有之候、申ス迄モ  
無之南京政府ノ財務整理ヲ援助スル事ハ對支四國團ノ活動  
ノ主要ナル一項目ニシテ、右ハ主義上同一意見ナルノミナ  
ラズ、日本側ハ最も多額ノ對支債權ヲ有シ其不拂ニ依ル損  
失ハ英國側ニ比シ遙カニ甚大ナルモノ有之候ニ就テハ南京  
政府ノ現状ニ照シ其效果ハ餘リ期待スル事ヲ得ザルモノア  
ルモ兎ニ角今同英國側ヨリ提議アリタルヲ好機トシ他團體  
代表ト協力シ財政部ヲシテ可成速カニ債務整理ニ着手セシ

ムル様御配慮相成度候尙今後本件ノ進行ニ就テハ一御報告相成度且當方ニ御協議ノ必要起リタル時ハ即時御申出相成度豫メ申上置候  
右當用得貴意候敬具

(付記)

南京政府ノ債務整理促進方ニ關スル件

一、大正十四年十月北京關稅特別會議ニ於テ各國ハ支那關稅ノ増徴問題ト併セテ支那ノ財政確立殊ニ債務整理問題ヲ審議シタルカ同會議ハ翌十五年七月ニ至リ支那政情ノ變動ノ爲遂ニ所期ノ目的ヲ達成スルニ至ラスシテ無期休會トナリタリ

二、其後我方ハ債務整理問題ニ關シ機會アル毎ニ支那側ノ注意ヲ喚起シ先ツ昭和四年一月支那新輸入稅率ヲ承認スルニ當リ支那側ヲシテ交換公文ニ依リ新稅率ニ依ル増收中ヨリ毎年少クトモ五百萬元ヲ支出シテ無擔保及不確實擔保内外債ノ整理ニ充當スルコト及右整理ノ詳細ナル辦法ニ付テハ支那側ニ於テ最近期內ニ債權者會議ヲ召集シテ之ヲ討議スヘキコト等ヲ約セシメ又昭和五年五月日支關

金ノ支拂方ヲ要請シタルモ南京政府ハ其都度「内外債整理委員會」云々ニ藉口シテ其決濟ヲ遲延シツツアルノ現狀ニ鑑ミ上海英國團體代表ニ對シ日米佛團體代表ト協議ノ上南京政府ニ對シ四國團體ハ内外債整理委員會ノ事業ニハ多大ノ利害關係ヲ有シ又其整理事業ヲ援助スルノ用意アリトノ趣旨ヲ以テ債務整理促進方ヲ申入ルル様訓令シタルニ付テハ日本側ニ於テモ右ニ異存ナクハ同一行動ヲ執ラレ度」旨申出アリタル趣ナル處此際我方ニ於テ右英國側申出ニ應シ南京政府ニ申入ヲ爲スコトハ南京政府ノ現狀ニ照シ其效果ハ餘リ期待スルコトヲ得サルモ將來債務整理ニ關スル我方ノ立場ヲ有利ナラシムヘキノミナラス支那ニ於ケル日英協調ノ復活ニ資スル所アルヘク旁々大局上得策ト認メラル尤モ我方ニ於テ右様申入ヲ爲スニ於テハ南京側ハ之ニ對シ債務整理ノ主タル財源ハ關稅剩餘ナルヲ以テ滿洲國ニ於テ滿洲ノ關稅ヲ抑留スル限リ債務整理ヲ實現スルコト困難ナリトノ趣旨ヲ以テ我方ニ於テ滿洲國ノ關稅カ南京側ノ手ニ渡ル様努力セラレタキ旨主張スルヤモ知レサルニ付テハ我方ニ於テ右申入ヲ爲ス場合ニハ英國側ニ便乘スル程度ニ止メ深入リセサル

稅協定締結ニ際シ支那側ヲシテ交換公文ニ依リ前記昭和四年一月ノ交換公文ノ趣旨ヲ確認セシムルト共ニ更ニ昭和五年十月一日若クハ其以前ニ債權者會議ヲ開催シ同會議ニ於テハ前記五百萬元ノ増額等ヲ含ム適當ナル整理案ヲ提出協議スルノ意思アルコトヲ言明セシメ尙公文交換ノ運ヒニハ至ラサリシモ右債權者會議開催ニ至ル迄ノ期間ニ於テ諸般ノ準備ヲ具体化スル爲支那側ヲシテ關稅協

定實施後成ルヘク速カニ日本政府ノ任命スル債權者代表ト非公式接觸ヲ開始スルコトヲ承諾セシメタリ  
三、右我方債權者代表ト支那當局トノ非公式接觸ハ其後時局ノ關係モアリ豫定通り開始スルニハ至ラサリシモ我方ニ於テハ重光代理公使ヲシテ關稅協定成立後隨時宋財政部長トノ間ニ非公式話合ヲ進メシメ殊ニ同年九月中旬ヨリハ同代理公使ヲシテ我方債權者代表ノ建前ニテ支那側トノ間ニ非公式交渉ニ從事セシムル所アリ又一方列國ヲ含ム債權者會議ハ同年十一月十五日南京ニ於テ開催セラレタルカ孰レモ具體的結果ヲ見スシテ終レリ

四、然ルニ今般對支借款團英國團體側ヨリ日本團體ニ對シ「英國側ハ從來屢々南京政府ニ英國側對支借款延滯元利

コトヲ要スヘシ

550

昭和7年8月12日

在香港桑折總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

孫科が汪兆銘辭職に關連したステートメント

発表について

香港 8月12日後発  
本省 8月12日後着  
第一四六號

汪精衛辭職問題ニ關聯シ孫科ノ發セル「ステートメント」大要左ノ通

一、汪ハ行政院長トシテ表面上政權ヲ把握セルモ事實ハ一有力者ノ掣肘ヲ受ケ内治外交共ニ自己ノ政策ヲ遂行スルニ由ナク遂ニ辭職スルノ已ムナキニ至リタル次第ナルカ其原因ハ單ニ張學良打倒ノミヲ目的トセス要ハ蒋介石ノ下野ヲ促進スルニアルモノト史料ス

二、内政問題ニ關シ現今黨同志中今尙訓政ノ主張ヲ固持シテ軍治人治ヲ禮讚シ黨ノ現狀ハ到底黨治ヲ行使スル能力ナシト見ル者アル處軍閥ノ獨裁ヲ牽制セント欲セハ須ク黨

ト民衆トノ關係ヲ密ニシ切實ナル合作ニ依リ眞ノ民主政治ヲ實現セシムル必要アリ

三、國際關係中特ニ日支問題ニ關シ今次日本カ敢然東三省侵略ノ舉ニ出テタルハ世界各國何レモ經濟的恐慌ニ呻吟シ他ヲ顧ミルノ暇ナキト自國軍備カ他國ニ比シ優ニシテ優ニ米露等ノ干涉ヲ排撃シ得ルモノト自認セルカ爲ニシテ否寧ク我國ニ對スル侵略ノ如キハ其ノ假想敵タル米露兩國ニ對スル挑戰ノ間接的作用ト見ラル蓋シ日本軍閥ハ其ノ對滿洲侵犯カ必スヤ米露兩國ノ忌諱ニ觸ルルモノトハ萬々承知ノ上ノ事ナレハナリ(中略)我國トシテハ此ノ際速ニ露支復交ヲ計ル要アル處右ハ共產黨宣傳其ノ他共產黨ニ利用セラルル虞ナキニ非サルモ復交問題ト共產黨問題トハ自ラ別ノモノト思料ス云々

551 昭和7年8月25日

在中国矢野臨時代理公使より  
内田外務大臣宛(電報)

有吉公使の国書捧呈の時機は滿州国承認前に

從テ最惡ノ場合ヲ考フレハ萬一公使御着任後國書捧呈前ニ於テ滿洲國承認ノ爲日支關係惡(化)シ支那側ニ於テ前記ノ如キ事情ヲ口實トシテ國書捧呈ヲ遷延スルカ如キ事アラハ公使ニ於カレテモ支那側トノ交渉乃至外交團側トノ聯絡上多大ノ不便ヲ感セラレ頗ル面白カラサル事態ニ立至ル虞アリ

三、以上ノ如キ機微ナル關係ヲ考量スルトキハ國書捧呈ハ出來ル限リ速ニ(滿洲)國承認前之ヲ行フコト然ル可シト存セラレ又先方ノ都合ニ依リテハ主席ノ現在地タル廬山ニ於テ捧呈スルモ一案ナリヤニ存セラルル處若シ本省ニ於テモ同様ノ御意嚮ナラハ場合ニ依リ豫メ南京側ノ意嚮等夫トナク確メタル上出來得レハ右ノ趣旨ニ依リ國書捧呈ノ大體ノ日取ヲ打合セ置クコト然ル可キヤニモ存セラルル公使ノ御意嚮ヲモ御確メノ上何分ノ儀至急御回示ヲ請フ

支、北平、奉天、長春へ轉電セリ

編注 九月二十八日發在南京上村總領事代理より内田外務

大臣宛電報第六六八号にて有吉公使が「廿八日來寧同日午前滞リナク國書捧呈了セリ委細郵報」との

行うべきとの意見具申

上海 8月25日後發  
本省 8月25日後着

第一一二九號(極秘)  
貴電第四二四號ニ關シ

我方國書捧呈ノ時機ハ慎重ノ考慮ヲ要スル次第ナルカ  
一、南京側特ニ蔣介石カ共匪討伐、對北方及廣東關係ノ機微ナル今日日支間ノ關係ヲ之以上惡化セシメサル事ヲ念トシ居ル事ハ大体肯定シ得ル所ナルモ一面滿洲問題解決ノ爲其問題トセル我方トノ直接交渉モ絶望トナリ且最近擡頭セル排日運動カ廣東側及部内ニ於ケル反蔣運動及實業家側ノ利己的策動ト相俟ツテ相當熾烈トナリツツアル折柄近ク我方ノ滿洲國承認ヲ機會トシテ頓ニ惡化スルノ危險アル等ノ事情ニ鑑ミ場合ニ依リテハ南京側ハ蔣一派ノ考如何ニ拘ラス或ハ一時對日強硬政策ニ引込マルルニ至ルヤモ計ラレス  
二、主席林森ハ目下廬山ニ病養中ニシテ今回ノ汪精衛事件ニ際シテモ蔣介石再度ノ懇請ニ拘ラス南京ニ歸來セサリシ事御承知ノ通ナルノミナラス南京側ニテハ國書捧呈ハ主トシテ洛陽ニ於テ之ヲ爲スノ建前ヲ取り得ヘク

報告あり。

552 昭和7年8月27日

内田外務大臣より  
在英國松平大使、在米國出淵大使、  
在ソ連邦広田大使他宛(電報)

軍事委員会北平分会成立をめぐる蔣・汪対立  
の状況について

本省 8月27日發

合第一七四五號

「支那情報」

往電合第一六六三號ニ關シ

一、其後蔣介石ハ其ノ直系タル何應欽等ヲ上海ニ派シ汪精衛トノ妥協ヲ計ラシメ居リタルカ其ノ結果ナルニヤ十五日ニ至リ中央執行委員會ハ張學良ノ河北綏靖公署主任辭職ヲ聽許スルコト、同公署ニ代フルニ國民政府軍事委員會北平分署ヲ新設シ學良派、蔣介石派及其他各派ノ北方將領ヲ委員ニ任命スルコト及汪ヲ慰留スルコト等ヲ決定シ汪ハ十七日南京ニ歸リ中央政治會議ヲ主宰シテ前記中央執行委員會ノ決定ヲ確認スルト共ニ學良派十一名蔣派二名其ノ他馮玉祥系、山西系及韓復榘等五名合計十八名ノ

北平分署委員ヲ決定シタル後十八日廬山ニ赴キ林森、蔣介石、何應欽、宋子文ト會議セルカ同會議ニ於テ汪ハ行政院長ノ辭意ヲ翻ササリシモ中央常務委員トシテ居殘ルコトヲ約シ又學良カ軍事委員トシテ留任スルコトニ反對セサリシ趣ナリ尙行政院長ノ後任ハ第三回中央執監全体會議ニ於テ決定スヘク夫レ迄ハ宋子文ヲシテ實際上行政院長ヲ代攝セシムルコトニ蔣、汪間ニ妥協成立セル由ニテ二週間ニ亘ル紛争モ茲ニ表面上一段落ヲ告ケタル次第ナリ

二、汪カ當初ノ意氣込ニ引換ヘ前記ノ如ク比較的容易ニ妥協スルニ至レルハ元來汪今次ノ辭職カ學良ヲ槍玉ニ揚クルコトニ依リ蔣トノ勢力争ニ於ケル頹勢ヲ挽回セントスル策謀ナリシ次第ナル處汪ノ學良攻撃ハ全國的ノ同情ヲ博シ汪自身ニ對スル一般ノ人氣回復ニ資シタルノミナラス蔣、學良ノ合作ニ間隙ヲ生セシメ且他日勢力伸展ノ基礎タルヘキ馮系及山西系ノ將領ヲ軍事委員會北平分會ニ加ヘ得タル以上敢テ辭職ヲ固執シ蔣ニ對シ獨裁確立ノ機會ヲ與フルヨリモ學良ノ辭職許可ヲ條件トシテ一旦蔣ト折合ヒ中央ニ止ルコトヲ有利ト認メタルニ依ルモノナルヘ

ルモノト認メラレ旁々汪、蔣ノ抗争ハ今後内面的ニ益々激化シ行クモノト思考セラル而シテ三中全會ニ於ケル行政院長後任問題等ヲ導因トシテ右抗争ノ表面化ヲ見ルコト無キヲ保セス更ニ華北ノ形勢ハ蔣トノ提携ノ下ニ樹立セル學良ノ專制ヨリ學良、蔣、馮、閻等諸派ノ合作ニ變轉セルモノニシテ軍事委員會分會ニ於テハ學良派優勢ヲ持シ居ルモ其ノ間將來ニ於ケル紛亂ノ危險ヲ包藏スルモノトイフヘシ尙西南方面ニ於テハ學良及蔣介石ニ對スル反感ニ基キ事件ノ當初ヨリ汪ニ同情ヲ示セルカ汪ト關係深キ廣西派軍閥ハ傍觀的態度ヲ持シテ動カス又廣東派ノ一部ハ時局ニ乘シテ獨立ニ進マント策動セルモ元老胡漢民自重シテ動カサル爲沙汰止ミトナレル模様ナリ

553

昭和7年8月29日

在中國中山(詳一)公使館一等書記官より  
内田外務大臣宛(電報)

内田外務大臣の議會演説により北方將領の対日感情激化等の商震内話について

北平 8月29日後發  
本省 8月30日前着

ク又蔣トシテモ剿匪等ノ爲メ餘力乏シキ折柄時局ノ紛糾カ北支ノ動搖及政府ノ改組ニ止マラス各方面ノ反蔣運動ノ鋒起迄發展センコトヲ虞レ或程度迄學良ヲ犠牲ニ供シテ汪ト妥協シ且軍事委員會北平分會ノ設立ニ依リ北支ノ動搖ヲ防キツツ北方ニ自己ノ勢力ヲ進展セムトスルノ策ニ出テタルモノノ如シ然ルニ學良ハ既ニ民心ヲ失ヒタル爲表面上下野外遊ノ決意ヲ裝ヒ居ツツ内心蔣ノ支援ニ期待シ其ノ慰留ヲ待チ構ヘ居タルモノノ如キ處前述ノ如ク蔣カ汪トノ妥協ノ爲學良ヲ見捨ツルノ態度ニ出テタルノミカ北支ニ對スル勢力ノ進展ヲ計ルヤ(蔣ハ軍事委員會分會ニ蔣派委員二名ヲ任命スル外自ら分會長タラント試ミタルモノ、如シ)學良直屬部下ハ前記中央ノ決定ニ反對シ學良ノ軍事委員復活方ヲ強要セムトスル態度ヲ示シ來レルニ依ル(固ヨリ學良ノ使囑ニ由ルモノト認メラル)蔣ハ北方形勢ノ惡化ヲ惧レ北平分會長兼任問題引込メ分會長ノ椅子ヲ未定ノ儘トスルト共ニ前記ノ如ク廬山ニ於テ汪ヲシテ學良ノ軍事委員留任ヲ承諾セシメ漸ク局面ヲ糊塗セルモノノ如シ

三、今次事件ノ結果中央ニ於ケル汪ノ勢力ハ或程度迄挽回セ

第五三六號

須磨ヨリ

二十九日商震ノ内話左ノ通

一、外務大臣議會演説ニ依リ北方將領ノ對日感情ハ頓ニ激化シ此ノ上ハ日本ト一戰ヲ交ユルコトヲモ辭セサルヤノ風ヲ生シ一時相當軟化シカケタル當方ノ空氣ニ暗影ヲ投シ例ヘハ汪精衛ノ旨ヲ受ケタル陳公博カ自分ニ對シ日本トノ商議成功ノ上ハ所謂賣國協定ニ自ら署名スルモ辭セストサヘ内話シ居タルモ今ヤ殆ト實現ノ見込ナキ狀況ヲ呈シ居レリ

二、學良下野ハ結局時間ノ問題ナル處實ハ數日前學良自分ヲ訪問シ近ク漢口ニ赴キ蔣介石ノ眞意ヲ確メ果シテ對日外交政策上自分ノ下野ヲ必要トスル事情アルコト判明セハ一時ナリトモ外遊ノ決意ナリト内話シ居レリ

三、朝陽方面ニ於ケル日本軍ト熱河軍トノ衝突ハ當方面ニ多大ノ反響ヲ與ヘ學良部下ハ之ヲ道具トシテ大袈裟ニ宣傳シ南方ヲ威嚇シアワヨクハ學良ノ下野外遊ヲ阻止セントシ居レリ依テ日本軍ハ此ノ際性急ニ熱河ノ手入ヲ爲スハ却テ學良ノ地位ヲ安固ナラシムヘキカ故ニ日本ノ爲取ラサル所ナルニ付右ニ對シテハ武力ヲ避ケ飽迄モ政治的手段ニ依リ

徐々ニ解決ヲ圖ルヲ得策ト爲ス

四、當面日支難局打開ニハ日本ハ汪、蔣ト折衝ヲ重ヌルノ外ナカルヘク右ニシテ纏レハ北方ハ大体之ニ和スヘク唯胡漢民ノ率ユル廣東派カ種々邪魔ヲ入レ得ル餘地アルモ陳濟棠ハ元來地盤主義ニテ終始シ居レハ大局上已ムヲ得サルニ至ラハ之亦汪、蔣ニ靡クヘク漢民ハ自然爲ス所ヲ失フニ至ルヘシ唯最モ注意スヘキハ滿洲國承認直後ノ機微ナル間ニ孫科陳友仁等ノ指嗾アル所謂反日團體カ敵本主義ノ下ニ上海事件ノ二ノ舞ヲ釀サントスル惧多分ニ存在スル點ナリ之カ防止ニ付テハ日本當局ニ於テ充分ナル考慮ヲ加ヘラレ速ニ汪蔣等ト商議ニ入ラルルコト肝要ナルヘク自分ハ支那人トシテノ立場ヲ去ルコト勿論不可能ナルモ出來得ル限り北方ニ於テ右商議ノ進捗ニ及ハス乍ラ助力致度シト存ス  
公使、南京、廣東、漢口、青島、濟南、天津、奉天、哈爾濱、長春ニ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

554 昭和7年8月30日

内田外務大臣より  
在中国矢野臨時代理公使宛(電報)

往電第二三〇號ニ關シ

二日來濟セル張宗昌ハ煙灘。自動車路惡キ爲郷里掖縣ニ赴クヲ止メ今朝十時石友三公館ニ於テ韓復榘ノ招待ヲ受ケ午後六時四十分發ノ津浦線ニテ歸平スヘク同驛ニ赴キ發車間際ニ「プラットホーム」ニ下リ見送人ニ挨拶シツアル利那近距離ニ於テ拳銃ニテ狙撃セラレ顔部及頭部二三發ノ貫通銃創ヲ受ケ瀕死トナリ副官及從者重傷ヲ受ケ三名トモ濟南醫院ニ送ラレタルモ張ハ途中既ニ絶命シ從者モ入院後直ニ死亡シ副官ハ生命ニハ異狀ナカル可ク治療中ナリ  
犯人ハ四名ナルカ如ク現場ニ於テ二名ハ逮捕セラレタルカ右ハ元張宗昌ノ師長鄭金聲ノ甥。鄭維賢ト其ノ從者ニシテ鄭師長ハ嘗テ張ノ爲銃殺セラレタルニ付報復セルモノナリト傳ヘラルルモ軍法處ニ於テ取調中ナリ目下ノ處重大ナル政治的背景ナキモノノ如キモ詳細判明セス警戒中市面ハ別段異狀ナシ不取敢

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

支、北平、青島、奉天、天津、南京、漢口、廣東、芝罘、坊子、張店、博山ヘ轉電セリ

有吉公使の国書捧呈の日時、場所等につき  
国側と打合せ方訓令

本省 8月30日後9時発

第四三九號

貴電第一一二九號ニ関シ

有吉公使ハ九月四日貴地ニ着スヘキ処貴見ノ通國書捧呈ハ出來得ル限り速カニ行フコト肝要ナルモ一方右捧呈ノ場所ハ貴電第一一三八號伊太利側ノ例モアリ其他各般ノ關係ニ顧ミ南京ト致度南京來電第五九八号ノ次第ヲモ御含ノ上至急南京側ト御打合置キ相成り度シ  
右公使モ承知済

南京、北平、奉天、長春ヘ轉電セリ

555 昭和7年9月4日

在濟南西田總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

濟南駅頭における張宗昌暗殺について

濟南 9月4日前発

本省 9月4日前着

第二三三號

556 昭和7年9月10日

在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

満洲國承認と同時に宣言発表の場合なるべく

中国側の神経を刺激する言辭回避方意見具申

上海 9月10日後発

本省 9月10日後着

第一一五八号

本使今回南京訪問ニ際シテハ外交部長ト面談ノ節モ特ニ時局談ヲ為サス唯間接且ツ婉曲ニ我方ノ態度ヲ表明シ先方ノ態度ヲ探ルニ止メ先方モ同様ノ態度ニ出テ其ノ他ノ要人ハ不在ニテ面会ノ機会ヲ得サリシカ今日迄ノ観測ニ依レハ支那側一般國民ハ我方ノ滿洲國承認ニ對シ極度ニ神經ヲ尖ラシ居リ政府當局ニ於テモ承認ニ依ル民心ノ動搖ニ對シ多大ノ関心ヲ有シ居ル次第ナレハ(此ノ際ニ於ケル不法逸軌行動ニ對シテハ充分取締リ事端ノ發生ヲ避ケント努メ居ルヤニ認メラル)政府ニ於テ近ク承認ト同時ニ宣言書発表ノ場合ハ成ル可ク支那側ノ神經ヲ刺戟スルカ如キ言辭ヲ避ケテ出來得ル限り之ニ同情ヲ表シ安心セシムル様ニ手心ヲ加ヘラルル事ト致度シ為念

駐滿全權、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、福州、廣東ニ轉電シ上海ニ轉報セリ

557 昭和7年9月14日 在上海村井總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

日本軍特務機關の面策による華北獨立説に關する情報について

上海 9月14日後發  
本省 9月14日後着

第一〇三九號

五日奉天發電通報スル處ノ北支獨立説ハ段祺瑞ヲ中心トスル安福派一派ノ劃策ニテ其ノ間多少軍部側ト聯絡ヲ着ケント試ミツツアルヤニ聞キ及ヒ居タル處二十三華聯。北平電報ハ日本ノ北支政策近日益々緊張シ八月上旬以來日本軍特務機關ハ英、支、佛、朝鮮等ノ各國語ヲ操ル二十八名ノ腕利ノ探偵ヲシテ北平ヲ根據地トシテ各地ノ土匪、失意軍閥、政客及東三省出身ノ劣紳並財產アル東北軍人ト聯絡シ河北獨立ノ軍事計畫ヲ進メツツアリ其ノ目標ハ

(一)國民政府トノ關係ヲ絶チ河北獨立國ヲ建立シ

リ國家ノ重キニ任スル我黨ハ亡國ノ罪人トナラス總理ノ偉業ヲ失墜セス領土及政權ノ保全ヲ計ルハ民意ニ基キ民力ヲ集中シ以テ強暴ト應酬スル外途ナキヲ信ス

三、凡ソ自立スル事能ハスシテ他人ニ頼リ存立スル國家ナシ規約違反ノ暴日ヲ制裁スルハ聯盟ノ義務ニシテ支那ノ要求ヲ俟ツ迄モナシ國際關係激變ニ際シ沈着ニ聯盟ノ決議ト行動ヲ待ツハ支那トシテハ當然ノ順序ニシテ叩頭歎願スルモノニ非ス從テ今日ノ場合言フヘキ理由アラハ是ヲ言ヒ言フヘキ理由ナクハ力ニ依ラントス瓦全タルヨリハ寧ロ玉碎スルハ我黨ノ志ナリ

三、凡ソ心中ノ病ヲ除カスシテ良ク外侮ニ當ル國家ナシ上海事件ノ際中央ノ援兵ハ共匪ニ牽制セラレテ時期ヲ失セリ今日政府力積極的ニ剿匪ニ從事スルハ外侮ニ當ル決心ヲ示スモノナリ

六 中国政情  
四、凡ソ政府ト人民ト相和セスシテ大難ヲ救ヒ得ル國家ナシ今日國民ニシテ政治的見解ヲ異ニシ又政治的集團ノ複雜シ居ル事ハ否ミ難シ故ニ我黨ハ國家生存ノ爲一切ヲ忍受スヘク同胞力充分ナル同情ト協力ヲ與ヘン事ヲ望ム  
五、凡ソ長期ノ計畫ト準備ナクシテ永久の生存ヲ計リ得ル國

(二)滿洲國ノ獨立ヲ承認シ日滿及河北共和國間ニ攻守同盟ヲ結フ

(三)日本ヨリ軍費、武器、彈藥ヲ供給シ張學良ヲ打倒シ東北軍ノ實力ヲ消滅スルニアリ  
云々ト報道シ居レリ

駐滿全權ヨリ奉天へ轉報アリタシ  
駐滿全權、北平、天津、濟南、青島、南京、漢口、廣東、福州ニ轉電シ支ニ轉報セリ

558 昭和7年9月18日 在南京上村總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

中央執行委員會が九・一八に當り國民に告ぐ書發表について

南京 9月18日後發  
本省 9月18日後着

第六四四號

中央執行委員會ハ十八日附ヲ以テ九、一八ニ當リ國民ニ告クルノ書ヲ發表セルカ其大意左ノ通

一、東三省ヲ失フテヨリ既ニ一年全國同胞ハ共ニ存亡ヲ誓ヘ

家ナシ事態カ今後益々重大トナルヘキハ斷言シ得ル處ナリ此時ニ當リ民族政治ヲ發揮シ國防物質ヲ併進シ知識技能ヲ訓練スル事肝要トス我黨ハ全國同胞ト一致邁進シ九死ニ一生ヲ得ン事ヲ希フ云々委細郵報

支、駐滿全權、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、長春へ轉電セリ

駐滿全權ヨリ奉天へ轉報アリ度シ

559 昭和7年9月21日 内田外務大臣より  
在米國出淵大使 宛(電報)  
在仏國長岡大使

山東における韓復榘、劉珍年対立の状況について

合第一八六九號  
本省 9月21日發

(一)九月十六日山東省膠濟鐵路濰縣及高密方面ニ駐屯ノ韓復榘麾下部隊ハ突如鐵道線路ノ東北方ノ地帶昌邑、平度等ノ方面ニ向ケ移動ヲ開始シ同方面ノ劉珍年(省政府委員ニ十一師長)麾下ノ部隊ニ對シテ壓迫ヲ加フルト共ニ濟南ヨリ陸續部隊ヲ濰縣ニ集中セルカ劉ハ芝罘ヨリ掖縣、萊

州)方面ニ援兵ヲ輸送スル一方平度ノ東方萊陽ニ兵力ヲ集中シ韓軍進撃ヲ阻マントスルノ態度ニ出テタリ韓軍ノ主力ハ十七、八日ニ亘リ煙灘自動車道路ヲ東進シ小競合ノ後沙河掖縣ニ達セル趣ナルカ未タ兩軍主力ノ衝突ハ行ハレサル模様ナリ(前線ニ於ケル韓軍ノ兵力ハ約十二團、劉軍ノ兵力ハ約十團ナル由)

(二)今回韓劉兩軍對峙ノ原因ニ付テハ種々觀測行ハレ居ルモ元來韓ニトリテハ芝罘ヲ根據地トシテ山東半島北部一帯ニ勢力ヲ張ル劉ハ邪魔物ナリシ處最近劉ハ所轄區域外タル膠濟鐵路方面ニ實力ヲ及ホシ來リタル爲兩者ノ關係ハ益々圓滑ヲ缺クニ至リ韓ハ劉カ管下ニ於テ苛斂誅求ヲ事トスル結果住民ノ怨恨ヲ買ヒ民團軍トノ間ニ既ニ兩三回ニ亘リ衝突ヲ起シタルニ附込ミ土匪肅清ニ關スル協力ヲ名トシテ手兵ヲ進メ劉軍力退カサレハ討伐スルノ決心ヲ爲シ内密ニ濰縣方面ニ兵力ヲ集中シタル上今回ノ舉ニ出テタルモノノ如シ

尙韓ハ十八日中央其他ニ通電ヲ發シ劉ノ秕政ヲ攻撃シテ自己ノ行動ヲ辯解スル所アリタリ

(三)今後事態ノ發展如何ハ豫測シ難キ所ナルモ韓トシテハ優

遺憾ナリ殊ニ在京中參謀本部ノ知人ヨリ得タル印象ニ依レハ時局此ノ儘ニテ推移センカ日本軍部ハ其手ニテ學良ヲ片附セントスル氣配サハアルカ如ク前途誠ニ憂慮ニ堪ヘス更ニ當方面要人トモ隔意ナキ意見交換中ナルカ結局日支關係此ノ上ノ惡化ヲ防止シツツ之ヲ漸次解決スルニハ學良ヲ支那側ノ實力ニテ下野セシメ滿洲問題行詰ノ責任ヲ負ハシムルノ外無キカ之カ爲ニハ先ツ日本ノ諒解ヲ得テ山東ヲ策源地トシ韓復榘ヲ利用スルコトトシ(韓モ行ク行クハ此ノ策ニ出テンコトヲ企テツツ先ツ手近ノ劉珍年ヲ片附ケ居ルトモ觀ラル可シ)一方胡漢民、孫科、伍朝樞、陳策等所謂廣東派ヲシテ直接間接之ヲ支持セシムルヲ最モ效果的ト考ヘ居レリ

(二)何レ數日中ニハ廣東ニ赴キ胡漢民等ト意見交換ノ心組ナル處假令學良ノ下野實施ノ曉ニモ支那トシテ滿洲國ヲ承認スルハ不可能ナルカ責任ハ學良ニ塗附ケテ何レ臥薪嘗膽失地ハ回復スヘシ等可然面子ヲ立ツル等ノ方法ニ依リ兔モ角モ日支關係ヲ好轉セシメ得ヘシト信ス

(三)唯孫科ハ今以テ行政院長タラントスル下心ヲ棄テス過般來滬セル伍朝樞陳策等カ近ク北上スヘシトノ説ハ若シ事

秀ナル兵力ヲ持スルトハイヘ劉軍ヲ一氣ニ粉碎シ得サル場合ニ於テハ津浦沿線方面ノ防備モ顧慮セサル可カラサルヲ以テ戰鬪カ如何ナル程度迄擴大持續スルヤハ主トシテ張學良蔣介石ノ出方如何ニ係ルモノト見ラレ居レリ(十九日ノ中央常務談話會ニ於テハ韓劉兩人ニ對シ和解方勸告スルコトニ決シタル由ナリ)

佛ヨリ在歐各大使(土ヲ除ク)及聯盟ニ轉報アリタシ

560 昭和7年9月22日 在中國有吉公使より 内田外務大臣宛(電報)

日中關係打開策に關する陳中孚の須磨への内話について

上海 9月22日後發 本省 9月22日後發

第一一九八號

八月迄二箇月天津ニ滞在九月初旬東京經由歸滬シタル陳中孚二十一日須磨ニ内話セル時局談左ノ通

(一)自分ハ豫テ胡漢民ノ意ヲ受ケ日支關係好轉ノ端緒ヲ見出ス爲奔走中ナリシカ日本ノ滿洲國承認ニ依リ頓挫セルハ

實ナラハ北方將領ヲシテ孫ヲ推薦セシムル考トモ見ラレ居レリ斯クテハ蔣張ノ腐レ縁カ深ミニ這入ルコトナリ 寒心ニ堪ヘス云々、委細郵報

駐滿全權、北平、天津、濟南、青島、南京、漢口、廣東ニ轉電シ上海ニ轉報セリ

駐滿全權ヨリ奉天ニ廣東ヨリ香港ニ轉報アリタシ

561 昭和7年9月30日 在天津桑島總領事より 内田外務大臣宛(電報)

安福、直隸兩派の華北政權奪取の画策について

天津 9月30日後發 本省 9月30日後發

第三八六號

北支ニ於ケル時局情報左ノ通

一安福派ハ何等實力無ク又資金無キヲ以テ從來ノ反張方針ヲ變更シ學良ト合作ノ上機會ヲ俟チテ段祺瑞ヲ首班トスル新政權ヲ樹立セン考ニテ王揖唐、曹汝霖ヲ頻繁ニ北平ニ派シ對日關係上此ノ際段派ヲ擁立シ北方ノ大同團結ヲ德憑シ居ル處學良ハ對日關係ノミニ段派ヲ利用セントスルモ一切

ノ政權ヲ段ニ引渡スノ意圖無キヲ以テ段派ニ於テハ日本軍ハ早晚熱河ニ進出シ平津兩地ニモ武力壓迫ヲ加フルニ至ルヘク斯クテハ河北ノ地モ遂ニ保持シ能ハサル惧アリト宣傳シ此ノ際段ヲ中心トスル北方大同團結ヲ成シ之ニ備フルノ要アリト鼓吹シ各方面ニ對シ策動シ居レリ其ノ情勢ニ應シ學良ヨリ政權ヲ受繼カントスル意圖ナルカ如シ  
三直隸派ハ目下朝陽方面ニ在ル韓。子。清。ヲ總指揮トスル義團軍(郭松齡ノ舊部下ニシテ約四萬ト稱セラレ反學良ノ意圖ヲ有ス)ヲ其ノ基本實力トシ熱河ノ民軍(ロハンリン)ヲ首領トシ約四萬ノ實力アリト言フ)ト聯絡シ最短期間ニ先湯玉麟ヲ驅逐シ一時熱河省ヲ奪取シ次テ學良討伐ニ出ツルコトヲ秘密裡ニ劃策シ居レリ熱河攻略及學良討伐ノ場合日本側ノ好意的援助ヲ切望シ居レルカ右計畫ハ其ノ指導宜シキヲ得ハ相當具體化スルヤニ認メラル  
公使ヨリ上海へ、駐滿全權ヨリ奉天へ轉報アリ度シ  
駐滿全權、公使、北平、濟南、青島、長春、南京、漢口、廣東へ轉電セリ

(二)本月初旬威海衛ヨリ歸京セル「ベック」ハ兩三回上海ニ赴キ宋子文ト折衝セルカ右ハ米國ヨリ米貨約一千萬弗ノ小麥ヲ國民政府ニ對シ掛賣ノ方法ニテ漸次賣渡ス問題ニ關スル次第二テ最後裁決ヲ經ル爲「ベ」ハ宋ト共ニ蔣介石ノ許ニ赴キタルモノナリト傳ヘラル  
右ノ外最近支那側ニテハ江蘇、浙江、江西、安徽、河南各省ニ自働車交通網ヲ建設スル計畫ニテ右自働車路敷設ニ要スル工費米貨一千萬弗並ニ「フオード」自働車及附屬品代一千五百萬弗ノ借款ヲ米國側ニ申入レタル處米國側ニテハ之カ擔保トシテ右自働車交通收入ノ外ニ確實ナル第二擔保ヲ要求シ居リ之カ爲本借款ハ行惱中ナル趣ナリ引續キ注意中ナルモ不取敢御參考迄  
支、駐滿全權、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、芝罘へ轉電セリ  
駐滿全權ヨリ奉天へ轉報アリタシ

563

昭和7年10月6日

内田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

当面の急務は共匪討伐と国内の統一にあり暫

562

昭和7年9月30日

在南京上村総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

宋子文がドナルド張學良顧問およびベック在南京米國總領事を伴い韓・劉抗争ならびに米國小麦買入問題につき蔣介石と会谈について

南京 9月30日後発  
本省 9月30日後着

第六七一號

上海ヨリ歸京セル宋子文ハ二十八日飛行機ニテ學良顧問「ドナルド」及當地米國總領事「ベック」ヲ伴ヒ蔣介石ト會談ノ爲廬山ニ赴キ本三十日歸京セルカ「ド」及「ベ」ノ用向ニ關シ諜報者ヲシテ内偵セシメタル處左ノ如シ

(一)蔣介石ノ支持シ居ル劉珍年カ韓復榘ノ爲山東ヨリ驅逐セラルルコトハ蔣ニ取り重大問題ナルカ今回ノ韓、劉抗争ノ結果東北海軍カ韓側ト聯絡ヲトリタルコトハ更ニ蔣ノ重大視スル處ニシテ蔣トシテハ此ノ際劉ノ地位ヲ擁護スルト共ニ韓東北海軍ノ接近ヲ飽迄阻止スル方針ニテ學良ト密接ナル聯絡ヲトル爲特ニ「ド」ヲ招致シタルモノノ如シ

時滿州放棄もやむを得ないと、の藍衣社宣言に

つき査報方訓令

本省 10月6日後8時30分発

第四五九號

四日上海発電通ハ蔣介石ノ率キル「フアツシヨ」團體タル藍衣社ニ於テハ支那ノ現状ハ目下武力ニ依ル失地回復ヲ許サス又國際狀況モ有利ナラス当面ノ急務ハ共匪ノ討伐及國內ノ統一ニシテ政府及人民ハ暫時滿洲ヲ拋棄スルトモ之等急務ヲ遂行スヘキナリトノ趣旨ノ宣言ヲ發シタル趣ヲ報シ居ル処之カ真相調査ノ上回電相成タシ  
南京、漢口ニ轉電シ在上海總領事ニ轉報アリタシ  
北平、武藤全權ニ轉電セリ

564

昭和7年10月6日

在濟南西田総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

韓主席が山東方面での治安維持確約ならびに日中関係への善処の代償として日本側に要望した援助内容について

濟南 10月6日後発  
本省 10月7日後着

貴電第三六號ニ關シ

當地中野中佐不在中ニ付當時大橋少佐ニ内示シ陸軍側ヨリ何等カ訓令アリタルヤト問ヒタルニ該訓令ハ一讀燒却セルカ大體御來電ノ趣旨ト同様ニテ且韓ニ對シ具體的ニ如何ナル援助ヲ希望スルヤヲ質スヘキ旨電訓アリタルニ付同少佐ヨリ韓ニ話シタルニ追テ漸次ニ御願スヘシト答ヘタル趣ナリキ

元來韓主席等ニ對シ本官ニ於テハ今日迄大體今回御電訓ト同様ノ趣旨ニ依リ接觸シ來リタルカ將來トモ一層御電訓ニ副フヘキ様善處致スヘク又駐在武官側トハ從來ヨリ密接ナル聯絡ヲ採リツツアリ

韓ハ累次ノ報告ノ通り國際的問題ニ關シテハ中央ニテ措置スル外無キモ山東ニ關スル限りハ治安維持ヲ專念スルト共ニ中日ノ密接ナル關係ヲ顧慮シテ善處ス可キニ付日本側ニテモ應分ノ援助ヲ得度旨屢々洩ラセルカ右援助ニハ大體一、消極的ニシテ我方カ精神的好意ヲ有シ且在留邦人ノ一部又ハ浪人等カ中日間ニ紛擾ヲ惹起セサル様我方ノ取締ヲ欲

嫌疑ヲ避クル爲宣化ニ赴クト稱シ北上セル旨ヲ電報セリ

右馮ノ山東ヲ去リタルハ宋哲元カ察哈爾ニ出迎ヘタル爲ト傳ヘラルル處嘗テ蔣介石ヨリ韓ニ對シ馮ヲ山東ヨリ追出スヘキ旨相當嚴重ナル内命アリタルカ當時實行ニ至ラサリシニ蔣ハ今回ノ膠東事件ニ馮カ何等カ關係シ居ルニアラスヤト猜疑視セル(ニ)ヨリ韓等ト打合ノ上右嫌疑ヲ避クル爲山東ヲ去リタルモノト思料セラレ

尙馮ハ驛頭新聞記者ニ對シ今回ノ北上ハ別ニ原因ナク泰安在住久シキニ亘リタル(ニ)ヨリ轉居ヲ思立チシモノニテ聯盟調査團ノ報告書ハ列強ノ植民地ニ對スル所謂公理ト正義ヲ代表セルモノニシテ我國人ハ自身團結シテ侮リヲ防クニアラサレハ前途ハ寒心ニ堪ヘス膠東ノ戰爭ハ事前何等承知セス此不祥事發生ヲ遺憾トセルカ各省行政權ノ不統一ニシテ兩種實力ノ對峙ト牽制ハ禍根ノ主因タルニ付至急解決ヲ希望ス更ニ抗日問題ニ對シテハ武力ニ依リ失地回復アルノミ云々ト語レル趣ナリ

支ヨリ上海へ、滿ヨリ奉天へ轉報アリ度シ  
支、北平、青島、天津、南京、漢口、廣東、芝罘、滿ニ轉電シ、坊子、博山、張店ニ暗送セリ

スルコト

ニ積極的ニシテ或時期ニ至ラハ物質的援助ヲ意味スルニ様アリト思料セラルル處後者ノ如キハ頗ル機微ナル點アリ從テ慎重ヲ要シ輕舉セハ好意カ逆ノ結果ヲ招來スルノミナラス韓トシテハ勿論日本側モ困難ナル立場トナルヨリ適當ナル時期ヲ考慮セルモノト認メラル

青島ニ轉電シ、芝罘ニ暗送セリ

565 昭和7年10月8日

在濟南西田總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

馮玉祥が膠東事件の嫌疑を避けるためと称し  
山東を去り北上について

濟南 10月8日後発  
本省 10月8日後着

第三一五號

六日馮玉祥ノ秘書長鄧哲熙北平ヨリ馮出迎ノ爲泰安ニ赴キタルカ馮ハ昨七日津浦線ニテ家族衛隊百餘名ト共ニ當地通過驛ニテ韓主席等ト會見ノ上北上セシ處七日附ニテ張省政府秘書長ヨリ南京ニアル山東駐京代表宛ニ馮ハ膠東事件ノ

566 昭和7年10月11日

在漢口高井(未彦)總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

日本新聞の藍衣社宣言に関する報道振りにつき  
蔣介石の中央通信記者に対する談話について

漢口 10月11日後発  
本省 10月11日後着

第六五三號

支宛貴電第四五九號及拙電第六四八號ニ關シ

蔣介石ハ最近當地駐在中央通信記者ヲ招致シ大要左ノ如ク語リタル趣ナリ

過般日本新聞ノ報シタル(藍衣社)消息ハ今回ニ限ラス先月モ一度報道セラレタルコトアリテ當時自分ハ天津方面ヨリノ照會ニ對シ其實無根ナル旨回答シ置キタル次第ナリ思フニ右ハ日本カ調査團報告自己ニ不利ナル一方中國ノ剿匪軍カ日ヲ追フテ順調ニ進捗シ廳テ全國的總動員ヲ爲シ國民一致シテ日本ニ對抗セントスル氣運ニアリコトヲ知り故意ニ此無稽ノ謠言ヲ放チ以テ國際ノ視線ヲ轉向セシムルト共ニ調査團報告書ノ効力ヲ失墜セシメ又中國朝野ノ感情ヲ緩和

シ之ニ乗シ巧ニ東三省併呑ノ陰謀ヲ遂ケントスル野心ニ出テタルモノナルコト明カニシテ其心事ハ固ヨリ邪惡ニシテ吾人ノ齊シク痛恨スル處ナルモ其ノ手段ニ至リテハ一笑ニタニ値セサル處ナリ尙一説ニ依レハ右ハ蔣ノ單ナル對内政策ニ出テタル辯明トモ傳ヘラレ居ル處上海九日發通信ニ依レハ(監)藍衣社關係某要人ハ過日上海ニ於テ國民黨側ニ對シ(監)藍衣社ノ滿洲ニ對スル宣言發表ハ事實ナルカ右ハ日本新聞ノ傳フルカ如ク回收放棄ヲ意味スルモノニアラスシテ滿洲ハ現狀ノ儘暫次放任シ時機ヲ待ツテ適當トスル旨主張セルニ外ナラスト洩セルコトアル趣ナリ  
冒頭往電ノ通轉電セリ

567

昭和7年10月20日

内田外務大臣より  
在米國齋藤臨時代理大使  
沢田連盟事務局長  
宛(電報)

貴州・四川兩省における内争について

本省 10月20日後7時0分発

合第二〇一八號

往電第一九九二号ニ關シ

前貴州省政府主席兼第二十五軍長毛光翔ハ曩ニ其ノ主席ノ

左ノ通

一、最近當地方政局ハ表面極メテ平靜裡ニ經過シ居ル處裏面ニハ相當種々ナル變化アルモノノ如ク即チ陳濟棠ノ自己權力擁護乃至政界ヲ中心トスル邪魔者排除地盤固メノ各種工作又ハ民意迎合永久割據ノ爲ニスル商業政界兩方面各種實業發展計畫等著々企圖實行セラレ居リ今ヤ濟棠ノ壓倒的勢力ハ黨、政、軍ヲ通シ漸ク抜クヘカラサルモノトナリツツアル感アリ延テハ廣東地方ニ關スル限り濟棠ノ獨裁專行時代出現セントスル形勢アルヤニ觀測セララル(イ)當地方ニ於ケル汪兆銘孫科等ノ勢力ハ曩ニ早クモ崩壞シタルカ濟棠ハ徐々ニ其ノ殘留勢力ヲ掃除シ來リ一方外部ニ對スル代辯者トシテ寄生セシメ居タル西山派乃至元老派ヲ昨今煙タカリ出シ事毎ニ彼等ノ面目ヲ踏潰シテ居堪ラサル様仕向ケタル次第ハ最近ニ於ケル蕭佛成ノ出國及鄧澤如等ノ著シキ消極的態度ニ觀テ明カナルカ右ハ要スルニ濟棠獨自ノ芝居遂行ノ爲ニハ彼等ノ存在ヲ兎角小五月蠅ク感セラルル爲ニ他ナラス鄒魯ノ如キモ一時其ノ立場頗ル困難ニ觀ラレ出國說サヘ傳ハリシカ現在ニ於テハ濟棠ノ代辯者タル地位ニ甘シシ僅カニ其ノ地位ヲ保テ

地位ヲ奪ヒタル王家烈(Wang Chia-lich)ニ對シテヨリ含ム所アリシカ今次四川ノ風雲ニ乘シ密ニ劉湘ノ許ニ赴キ王ハ劉文輝ト通シ劉湘ノ背後ヲ脅スヘシト焚付ケテ王ヲ牽制スル約束ノ下ニ劉湘ヨリ武器及軍費ノ支給ヲ受ケタル上兵ヲ遵義方面ニ集中シ貴陽攻撃ノ準備中トノコトナルカ一方王モ戰備ヲ整フルト共ニ其ノ代表ヲ重慶ニ派シ劉湘トノ間ニ相互不可侵ノ了解ヲ取付ケシメタル由ニテ目下王、毛兩軍ノ戰機熟セル模様ナリ右ノ情況ヲ看取セル蔣介石ハ近ク調査及調停ノ為有力者ヲ派遣スル苦ノ趣ナリ  
聯盟ヨリ在歐各大使(露、土ヲ除ク)ニ轉報アリタシ

568

昭和7年11月12日

在広東吉田総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

広東地方において陳濟棠の独裁専行時代が出

現する形勢ありとの観測について

広東 11月12日後発

本省 11月12日後着

第六六一號

往電第五三九號所報以後ニ於ケル當地方時局觀察御參考迄

ル感アリ他方漢民濟棠間ノ關係ヲ觀ルニ漢民ハ内面的ニハ兎モ角表面ニ於テハ其ノ蔣介石一派ニ對スル婉曲策又ハ自派ノ黨員陳融(胡ノ義兄)李文範(胡ノ妹婿)胡毅生(胡ノ實弟)林直勉等カ濟棠右翼ノ下ニ置カレ居リ且古應芬派ノ劉紀文等カ漢民擁護ニ傾キツツアル等ノ關係將又自己保身ノ策等ヨリシテ濟棠ト或ル種ノ關係ヲ保チ居ル次第ナルカ他方濟棠トシテハ南京牽制乃至黨部利用ノ足シニモト漢民トノ連繫ヲ持續シ其ノ一派ヲ表面ニ立テ一部ノ責任ヲ負ハシメ能フ限り利用シ居ルモノノ如シ  
(ロ)既ニ黨政機關ヲ自家藥籠中ノモノトシタル濟棠ハ少クトモ當省内ノ共匪、土賊ノ掃蕩ヲ可成リ確實ニ實行シ居リ軍方面ニ於テ從來兎角ノ噂有リタル余漢謀モ剿共前線ヲ離ルル事二箇月餘ニシテ種種ナル臆說傳ハリシモ此ノ程濟棠トノ間ニ何等諒解成立シタルモノノ如ク前線ニ歸リ暗雲一掃セラレタルカ濟棠ハ今般更ニ將來匪賊ノ蜂起ヲ防止シ並ニ一般治安維持確保ノ爲ト稱シ全省各縣警衛隊ノ組織ニ根本的改良ヲ加ヘント目論見ツツアル反面外來兵力阻止ノ爲當地方郊外ノ防備ヲ嚴ニシ(八月二十八日附機密公第九二八號拙信)更ニ各種武器及飛行機等ノ

570

昭和7年11月16日

在南京上村総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

第一一九五號

前招商局總理李國杰ハ十三日上海市政府ニ於ケル朱交通部長主催ノ同社善後會議ニ出席シタル儘公安局ノ手ニ拘留セラレタルカ其原因ニ付當地新聞報道ニ依レハ招商局ハ經營難ニ悩メル結果本年九月始當地英國會社「チャイナ、リアリテイ」ヲ通シ上海ニ於ケル同社碼頭ヲ始メ南北支那一〇港ノ同社所有財産ヲ擔保トシ「ダラー」汽船會社及米國銀行團ヨリ三千萬元借入レノ借款契約(前交通部次長陳孚木ノ署名アル由)秘密裡ニ締結シタルカ今般中央政治會議ノ結果招商局ハ國有ニ歸スル事ニ決定セル爲李ハ同會社ヲ國民政府ニ移管スルニ先立チ先週中急遽無斷ニテ本借款ノ正式調印ヲ了シタル事發覺セル爲ナル由委細郵送支ヘ轉報セリ

滿、北平、南京、漢口、青島、天津、廣東、福州ヘ轉電セリ

購入ヲ計リ之カ爲過般「國防救國」ニ名ヲ藉リ航空義捐及國防公債等ヲ發行シ只管實力ニ依ル地盤固メニ浮身ヲ儻シ居レリ

(ハ)濟棠ハ又昨今頻リニ廣東省市政三年計畫、興業五年計畫(共ニ既報)等ヲ主張シ居ル處右ハ要スルニ民衆ヲ喜ハセツツ永久割據ヲ策セルモノト觀ル可キ次第ナルカ茲ニ注意ス可キハ省政府主席林雲陔カ近來事毎ニ濟棠ト努メテ步調ヲ合セ來ル事ニシテ斯テ省政府モ事實上濟棠ノ手中ニ歸セル觀アリ

三、廣西派最近ノ動向ヲ觀ルニ相變ラス默々トシテ内ヲ治メ外ヲ顧ミス或ハ飛行隊ノ充實、兵器ノ購入乃至爆藥製造並ニ半徵兵制度ニ依リ兵力補充等專ラ軍備ヲ整ヘ居ル模様ナル處廣東側ニ對シテハ何等差當リ不和ノ情ヲ見サルモ濟棠トシテハ薄氣味惡キモノノ如ク曩ニ鄧澤如ヲ通シ白崇禧トノ諒解ヲ深ムルニ努メタル外前教育廳長許崇清外ニ名ヲ教育視察ノ名ノ下ニ派遣シタルカ最近李宗仁カ歸西シテ容易ニ來廣ノ模様見エサル爲兎角噂ヲ生ミ居ルモ當分ノ間獨力ニテ廣東ト事ヲ構フルカ如キ事無カル可キハ累次報告ノ通りナリ

上海 11月14日後發  
本省 11月14日後着

三、最近蔣介石ノ何鍵訪問ニ付當方面ニ於テモ多少ノ注意ヲ惹キタルハ事實ナルモ今ノ處格別考慮ニ入レ居ラサルモノノ如ク將又十九路軍ニ對シテハ廣西側ト合策成ラサル限り廣東側トシテハ深ク意ニ介シ居ラサルモノノ如ク四、之ヲ要スルニ當地方政局ハ尙當分ノ間差シタル變化ヲ見ス平靜裡ニ經過ス可キヤニ認メラレ中央ニ對シテハ內政軍事ノミナラス司法機關スラモ事實獨立の行動ヲ採リツツモ敢テ獨立ヲ宣セス剿共並ニ積極的抗日ヲ高調シテ人氣取ト同時ニ中央ノ政策ニ反對ノ意ヲ表明シ居ル程度ナリ

支、北平、奉天、天津、濟南、青島、南京、漢口、福州、厦門、汕頭ヘ轉電シ香港ヘ暗送セリ

支ヨリ上海ニ奉天ヨリ滿ニ轉報アリ度シ

569 昭和7年11月14日

在上海石射總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

米国会社との間に秘密裡に行なつた借款の廉で  
李前招商局総理が公安局により拘留について

南京 11月16日後發  
本省 11月16日後着

宋子文の新聞記者に対する談話中招商局の對  
米秘密借款を批難について

第七五五號

十五日杭州ヨリ歸京セル宋子文ノ新聞記者ニ對スル談話要領左ノ通り御參考迄

一、學良ハ蔣介石ニ面會スル爲漢口ニ赴ケルモノナルカ自分ハ同地ニテ學良ト單ニ華北ノ財政問題ニ付商議セルノミ學良カ杭州ニ赴ケルハ東北及上海事變ニテ我國ノ防空設備ノ不完全ナルヲ痛感シタル折柄杭州ニ航空學校新設セラレタルヲ聞キ序ニ參觀ノ爲立寄りタルモノナリ本日自分ト同乘北平ニ歸ル豫定ナリシカ何應欽ト杭州ニテ面談シ度旨電報ニ接シタルヲ以テ一日出發ヲ延期セリ(何應欽ハ楊杰ト共ニ十五日飛行機ニテ杭州ニ向ヘリ)

二、三中全会ニハ蔣介石モ歸京出席スル筈最近河南、湖北、安徽ノ共匪モ漸次肅清セラレタルニ付蔣ハ近ク江西ニ赴キ江西、福建、廣東ノ共匪モ平定スヘシ

三、新教育部長王文瀾ノ就任ヲ希望スルモ同人ハ辭退シ居レ

り

四、招商局長李國杰カ秘密裡ニ同局ノ主要財産ヲ擔保トシ外債ヲ借入レタルハ國權ヲ喪失スルモノナルヲ以テ到底承認シ難シ

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ  
奉天ヨリ滿及長春へ轉報アリタシ

571 昭和7年11月17日 在南京上村總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

招商局の対米秘密借款問題を行政院に回付し  
嚴重処罰する旨の政治會議決議について

南京 11月17日後發  
本省 11月17日後着

第七五六號

十七日ノ政治會議決議事項中左ノ通御參考迄

(一)招商局ノ對米違法借款問題ハ行政院ニ回付シ嚴重處罰スルコト

(二)朱家驊及居正等ノ提議ニ依リ全國ノ劇場及其ノ他ノ遊藝

コト

奉天ヨリ滿へ轉報アリ度シ  
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、福州、廣東へ轉電セリ

573 昭和7年11月22日 在廣東吉田總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

今回小麦借款は米國および宋子文を益するの  
みとの西南当局談報道について

廣東 11月22日後發  
本省 11月22日後着

第六七四號

南京當局ノ對米小麦五千萬元借款乃至外米輸入稅新設等ハ當地方ノ注意ヲ相當喚起シ居ル處<sup>(三カ)</sup>二十二日ノ漢字紙ハ西南當局ヨリ得タル情報ナリトテ

(一)今回ノ小麦借款ハ曩ノ水災救済ノ場合ト性質ヲ全然異ニシ之カ爲得スルハ米國及宋子文ノミニテ我農民ハ農産物價ノ下落ニ依リ損害ヲ蒙ルヘシ

(二)又外米輸入稅ノ新設ハ從來最モ多ク外米ヲ輸入シ來レル

場ニ對シ入場料ノ一割ニ當ル娛樂稅ヲ課シ東北難民救済費ニ充ツルコト

尙前記(一)ニ關シ交通部ハ十七日ノ新聞ニ本件契約全文ヲ發表セリ委細郵報

572 昭和7年11月18日 在南京上村總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

中央常務會議において十二月一日を期し中央  
党部および國民政府各機關南京復帰等決議に  
ついて

南京 11月18日後發  
本省 11月18日後着

第七五九號

十七日ノ中央常務會議決議左ノ通

一、蔣介石、宋子文ハ二十四委員ノ提議ニ依リ十二月一日中  
央黨部及國民政府並閣員、部、會ヲ南京ニ復歸ス  
二、前記二十四委員ノ提議ニ依リ長安ヲ國民政府直轄ノ市ト  
爲シ其ノ經費ハ國庫ヨリ支出スルコト又洛陽ニハ軍官學  
校分校及中原社會教育館、中原國立博物館等ヲ設立スル

廣東省民ニ大打撃ヲ加フルモノニシテ輸入米國小麦ヲ使  
用シ盡シタル後ハ長江筋ヨリノ米供給モ豫期シ難ク勢多  
額ノ輸入稅ヲ拂ヒツツ外米ニ頼ルノ外ナキニ至ルヘシ

(三)要スルニ南京側ノ廣東窘メハ今更ノ事ニアラサルカ廣西  
ヨリハ共產黨猖獗ノ爲手ヲ出シ得ス十九路軍ハ思フ様ニ  
動カス左リトテ湖南軍ハ頼ニナラサル爲茲ニ糧食攻メノ  
一計ヲ案出セルモノニテ西南當局ニ於テハ之ヲ重大視シ  
一兩日中ニ對案協議ノ筈ナリ

トノ南京側攻撃ノ記事ヲ掲載シ居レリ不取敢御參考迄  
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京へ轉電シ  
香港へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ、奉天ヨリ滿へ轉報アリタシ

574 昭和7年11月25日 在廣東吉田總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

対米小麦借款は國民生活を害するとの西南當  
局の反対通電について

廣東 11月25日後發  
本省 11月25日後着

往電第六七四號ニ關シ

二十四日西南當局ヨリ發出セル反對通電ノ大要左ノ通  
對米小麥借款ハ既ニ行政院ノ認可ヲ經不日調印ノ運ニ至レ  
ル趣ノ處今ヤ國內各地豐作ヲ稱ヘ政府トシテ然ルヘク調節  
方法ヲ講スヘキ必要ニ迫ラレ居ル際ナルニ拘ラス却テ他國  
ノ過剩<sup>(農)</sup>豐產ヲ借入レ國民ノ負擔ヲ増大セントスルハ不可ナ  
リ聞ク處ニ依レハ財政部ニ於テハ外米輸入稅率ヲ引上ケ米  
價ヲ騰貴セシメ本件小麥ノ販賣ヲ容易ナラシメントスル由  
ナルカ若シ政府カ權力ヲ以テ斯ル矛盾ノ措置ニ出テ米食地  
方民ノ負擔ヲ増加スルニ於テハ益々國民ノ怨嗟ヲ買フヘク  
況ンヤ一度昂騰セル米價ハ平價ニ恢復スルコト困難ニテ長  
期ニ亘リ國民ヲ害スルニ於テオヤ惟フニ本件借入小麥ヲ以  
テ現金ヲ調達センモノト思料セラルル處其支途ニ付疑フノ  
餘地ナシトセス曩ニ北平政府ノ外債ヲ起スヤ總理ハ「人民  
ノ幸福ヲ増進スルニアラスシテ軍閥ノ地位ヲ維持セントス  
ルモノナリ」トテ中國人民ハ償還ノ責ヲ負フ能ハスト言ヘ  
ルカ本黨指導下ノ政府ニ於テ此ノ轍ヲ踏マントスルニ於テ  
ハ到底緘默スルコト能ハス茲ニ敢テ電詢スル次第ニ付民衆

「イ」ハ宋子文ハ二十五日「リットン」調査團參加國代表  
者ヲ招待ノ際日支直接交渉說ハ日本側ノ宣傳ニテ支那ハ之  
ヲ「テイク、アツプ」スル意思無キ旨力說シタルモ（此ノ  
點冒頭貴電ト多少ノ相違アリ）全体トシテ宋ノ口調ニハ特  
ニ日本ヲ排斥スル様ナ空氣ヲ認メサリシト答ヘ又(二)ノ點ニ  
ハ何等言及セサリシ旨語レル由

尙其ノ際南京滯在中ノ印象トシテハ「イ」ハ支那政府ハ最  
初飽迄聯盟ニ依リ目的ヲ達成セントシ理事會ニハ顧、總會  
ニハ顏、情報蒐集ニハ郭ヲ配置シ全力ヲ盡シ居タルモ最近  
ハ聯盟ノ空氣面白カラストテ多少悲觀的觀察ヲ爲シ居ルモ  
ノノ如ク支那側ニ有利ノ解決ハ餘リ期待シ居ラサル様見受  
ケラレタル旨語レル趣ナリ御參考迄

壽府局長、滿、南京、北平へ轉電セリ

576

昭和7年12月3日

在厦門(三浦義秋)領事より  
内田外務大臣宛(電報)

十九路軍を中心とする福建省政府改組の成行  
きに関し観測について

ノ疑惑ヲ一掃スル爲明示セラレタシ云々  
支、北平、南京、奉天、天津、青島、漢口、濟南へ轉電シ  
香港へ暗送セリ

575

昭和7年12月1日

在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

宋子文による日中直接交渉説否定ならびに日  
貨排斥は愛國運動との声明に關しイングラム  
の内話について

上海 12月1日前發

本省 12月1日前着

第一三七九號

貴電合第二二〇二號ニ關シ

二十五日南京發中央(脱)電報ハ宋子文ハ二十五日各國代表  
ヲ招待シ(一)日支直接交渉說ハ絕對ニ事實ニ非ス日支問題ハ  
既ニ聯盟ニ一任シアレハ聯盟ハ速ニ適當ノ解決ヲ計ル可キ  
旨及(二)日貨排斥ハ愛國運動ナレハ政府ニ於テ之ヲ制止スル  
ニ便ナラサル旨正式聲明セル趣報道シ居レルニ付三十日  
「イングラム」來訪ノ際須磨ヨリ前記(一)ノ點ヲ尋ネタルニ

厦門 12月3日後發

本省 12月3日後着

第四八四號

往電第三八九號及第四五九號ニ關シ

十九路軍入閩當時一般民衆ハ之ヲ鐵軍トシテ迎へ多大ノ期  
待ヲ寄セラレタル處半歲後ノ今日ニ至ル迄左シテ剿共ノ實  
ヲ舉ケサルノミナラス當初ノ聲明ニ似ス政治方面ノ工作ニ  
没頭シ又奧地各方面ニ於ケル部隊中金廻リノ思ハシカラサ  
ルニ連レ掠奪、監禁其ノ他ノ不法行爲ヲ擅ニスル者漸ク多  
キヲ加ヘタル爲民心ハ漸次同軍ヲ去ラントシツツアル處其  
ノ入閩當時ヨリ不安ノ念ニ驅ラレツツアリシ土着雜色軍ハ  
陳國輝ノ監禁ニ依リ愈々團結自衛ノ必要ニ迫ラレ一方蔣光  
鼐ノ入閩<sup>(閩)</sup>前後ヨリ漸ク十九路軍ノ政治的野心ヲ看破セル厦  
門(海軍)官憲ハ萬一ノ場合ニ處スル爲種々對策ニ腐心シ中  
央海軍部方面トノ聯絡ヲ密接ニスルト同時ニ之等雜色軍ト  
ノ意思ノ疏通ヲ圖リ來レリ

然ルニ最近十九路軍ノ政治的態度一層鮮明ニ赴クニ伴ヒ民  
心ノ離反ヲ機會ニ之等諸分子合作對抗ノ機運急ニ促進サレ  
現二十一月廿六日當地ニ於テ代表者會議ヲ極秘裡ニ開催ス  
ルニ至レルカ其ノ後數日ヲ經スシテ十九路軍ヲ中心トスル

露骨ナル省政府改組ノ斷行ヲ觀タル次第ナリ  
 茲ニ吾人ノ看過ス可カラサルハ前記對抗運動ノ隠然中心ト  
 ナリ居ルハ當地官憲其ノ物ニ外ナラサル事ニシテ現ニ右秘  
 密會議ニハ林司令ノ腹心タル楊縣長(縣軍法處長)出席シ共  
 産軍來襲當時ヨリ林司令ノ手馴付ケ居タル高義ヲ表面ノ主  
 腦者ニ推シテ會議ヲ指導シ盧興邦劉和鼎トノ聯絡其ノ他ノ  
 具体的對抗策ヲ決議セシメ且各部隊ニ於テ彈丸缺乏ノ場合  
 ハ必要ニ應シ海軍司令部ヨリ供給ス可キ事迄モ内示シタル  
 趣ナリ(右ハ稍突飛ノ感有ルモ冒頭往電其ノ他ニ照シ司令  
 部側ノ態度ハ首尾一貫シ居ルヤニ認メラル)  
 如上ノ情勢ニ鑑ミ若シ十九路軍側ニ於テ省政府ヨリノ命令  
 ノ形式ヲ以テ當地海軍官憲ヲ壓迫シ之ヲ窮地ニ陥レントス  
 ルカ如キ場合ニハ福建ノ天地ニ由々敷形勢ヲ顯出スルノ惧  
 有ルヤニ觀測セラル(當地海軍關係事項ハ當分發表御見合  
 ヲ請フ)

支、北平、奉天、天津、濟南、漢口、上海、南京、福州、  
 汕頭、廣東へ轉電セリ  
 奉天ヨリ滿ニ、廣東ヨリ香港ニ轉報アリ度シ

~~~~~

滿ヨリ新京へ轉報アリタシ  
 支、滿、北平、奉天、壽府聯盟へ轉電セリ

~~~~~

578 昭和7年12月5日 在廣東吉田總領事代理より  
 内田外務大臣宛(電報)

廣東派の三中全会に対する態度観測について

広 東 12月5日後発  
 本 省 12月5日後着

第六九六號  
 往電第六九三號ニ關シ

(1) 廣東派ノ三中全会ニ對スル態度ハ累次ノ拙電所報其ノ他ニ  
 付綜合スルニ次ノ如シ

一、廣東派ノ三中全会ニ對スル態度ハ既チ其蔣介石ニ對スル  
 態度ニ外ナラスシテ蔣介石ニ對シテハ其獨裁專制ニ飽迄  
 反對シ對日屈辱の態度ヲ彈劾シ或ハ又米國小麥借款ニ付  
 テモ激シキ攻撃ノ矢ヲ向クル一面彼等ハ徹底的抗日剿共  
 ノ「スローガン」ヲ鑿シテ大向ヲ唸ラセツツアハヨクハ  
 西南割據ニ一歩ヲ進メテ中央ニ進出セントノ野望ヲ棄テ  
 ス

577 昭和7年12月4日 在南京上村總領事代理より  
 内田外務大臣宛(電報)

蔣介石は連盟中国代表に対し絶対に日中直接  
 交渉を主張した事実なき旨電報發出について

南 京 12月4日後発  
 本 省 12月5日前着

第七九一號

最近支那新聞ハ日本側ニ於テ日支直接交渉ノ空氣ヲ作ルヘ  
 ク種々宣傳シ居ルヤニ報道シ一般ノ注意ヲ惹キ居レルカ四  
 日ノ新聞ハ蔣介石ハ三日在壽府支那代表ニ對シ大要左ノ通  
 電報セル旨特筆掲載シ居レリ

日支問題ハ目下聯盟ニ於テ解決ヲ計リツツアル折柄自分  
 (蔣)個人ニ於テ直接交渉ヲ主張シ居ルヤニ傳フル者アル處  
 右ハ聯盟ヲ離間シ視聽ヲ惑亂セントスルモノナリ政府トシ  
 テハ既ニ宋行政院長代理及羅外務部長ヨリ外國在支外交代  
 表ニ對シ之カ否認ノ聲明ヲ爲セルカ余ハ此處ニ絕對ニ直接  
 交渉ヲ主張シタル事無キヲ特ニ聲明スルト共ニ聯盟カ必ス  
 ヤ好ク規約及其他ノ條約ノ尊重ヲ維持シ日支問題ノ公平適  
 當ナル解決ヲ計ルヘキ事ヲ確信ス云々

三、之ヲ以テ廣東派ノ三中全会ニ際シ處スヘキ態度ハ要スル  
 ニ右ノ日頃ノ主張ニ基キ(イ)自力ヲ以テ徹底的ニ日本ニ對  
 抗シ飽迄對日經濟絶交ヲ續ケ從テ(ロ)介石嫌カラセノ武力  
 失地回復ヲ學良ニ命令セシメ(ハ)剿共事業ニ對シテモ徹底  
 の方策ヲ決定ヲ主張スヘク(ニ)若シ會議ニ中央政府改組等  
 ノ提議アリテ事苟モ介石獨裁乃至其權力強化ヲ招來スル  
 カ如キモノアル場合ハ國民黨の純理論ヲ以テ斷乎之ニ反  
 對スルモノノ如ク察セラル

三(2) 是ヨリ先胡漢民初メ廣東派ハ當初其ノ作戰トシテ西南五  
 省及北方一部政客ト結託シ三中全会缺席ニ依リ會議ヲ不  
 成立ニ終ラシメ事實上之ヲ否認セントノ計畫ナルカ如ク  
 ナリシ處過半數ノ出席阻止ハ到底不可能ナルヲ覺レル一  
 方舉國一致國難ニ處ス可キ折柄内政上濫リニ消極的態度  
 ニ出ツルハ民衆ノ手前モアリ旁面白カラストナスニ至リ  
 最近各委員ノ三中全会出席如何ハ委員會トシテハ何等關  
 知セス個人的自由問題ナリトシ只多忙ノ職ニ在ル者ハ出  
 席不能ナル可シト世間體ヲ繕フ言ヲ弄シ居レリ  
 四、消息ニ依レハ廣東派ハ曩ニ蔣介石ノ掣肘ヲ避クル爲會議  
 地ヲ南京以外ニ指定ス可ク在滬委員ト呼應シ相當策動セ

ル趣ナリ而シテ程潛等四委員ハ來粵以來連日當地黨軍政諸要人ト會談シツツアル處其ノ目的ハ要スルニ獨裁防止ヲ中心トシテ只管蔣ノ權力削減ヲ目標トシ評定ヲ重ネ居ルモノト觀測セラル

五、結局ノ處西南側トシテハ政務委員會委員ノ二流所ノ手合及黨部側ヨリ若干ノ代表ヲ兎モ角一應上海邊迄赴カシメ南京方面ノ空氣如何ニ依リ三中全會ニ出席セシム可ク漢民、濟棠ハ勿論ノ事其他ノ領袖カ出席スルカ如キ事無カ

ル可シト存セララル  
尙冒頭往電一、ノ未尾(劉澤如)ハ(劉青陽)ノ誤リニ付御訂正ヲ請フ

右御參考迄

支、北平、奉天、天津、濟南、南京、漢口、福州、廈門、汕頭へ轉電セリ

支ヨリ上海ニ、奉天ヨリ滿ニ轉報アリ度シ

香港へ暗送セリ

579 昭和7年12月8日

在広東吉田総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

上海 12月13日後発  
本省 12月13日後着

第一四〇七號

十三日王正廷ノ須磨ニ對スル時局談何等御參考迄大要左ノ通

一、日支問題ノ解決ハ今次聯盟ノ遷延策ニ依リ一層困難トナリ之カ打開ニハ先ツ日本側ヨリ何等カノ「ヂエスチユア」ヲ示サルルコト必要ニテ私の會談ヲ繼續スルノミニテハ解決ノ見込付カス  
二、露支國交ノ恢復ハ單ニ多年ノ懸案タル兩隣國間ノ親善關係ノ恢復ニ過キサレハ外交及内政上ニ差シタル影響ナカルヘシ

三、三中全會ニハ孫科一派ヨリ例ニ依リ抗日剿共等ノ強硬策提出サルヘキモ會議ハ大体平穩裡ニ終始スヘク孫科カ立法院院長其他ノ官職ニ就クヘシトノ説ハ實現困難ナラン  
滿、奉天、北平、南京、廣東ニ轉電シ、上海ニ轉報セリ

581 昭和7年12月13日

在南京上村総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

対米小麦借款反対説に対する宋子文談話について

対米小麦借款に関し外米輸入税は取止めに決定との鄒魯談話について

広東 12月8日後発  
本省 12月8日後着

第七〇一號

往電第六八一號ニ關シ

二十七日鄒魯ハ新聞記者ニ對シ「小麦借款ニ付テハ未タ返電無キモ外米輸入税ハ既ニ取止メニ決定セル旨中央ヨリ正式返電アリタリ」ト語り居レリ御參考迄

支、北平、南京、滿、奉天、天津、濟南、青島、漢口へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

香港へ暗送セリ

580 昭和7年12月13日

在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

王正廷が須磨に對し日中間問題解決方ならびに中ソ復交等に関し談話について

南京 12月13日後発  
本省 12月13日後着

第八一六號

十三日宋子文ノ新聞記者ニ對スル談話要領左ノ通

一、我國ハ銀安ノ折柄本年一月以來九十余万噸ノ小麦ヲ輸入セルカ此ノ際政府カ自ラ小麦ヲ輸入セサルニ於テハ結局商人カ現銀ヲ以テ輸入スルコトトナルニ付政府ハ目下米國政府ト小麦借款交渉中ナリ然ルニ本年ハ豐作ニ付小麦輸入ノ必要無シトノ反對説ハ全ク誤解ニ出ツルモノナリ  
二、我國ハ連年ノ災害ニテ農産物不足シ且各地ノ米價不統一ニ付目下政府ニ於テハ米價統制ニ關シ考究中ニテ外米輸入税徴收ノ如キハ當分實行不可能ナリ

支、滿、北平、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

582 昭和7年12月17日

在南京上村総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

蔣介石主席の下での第一次正式會議において  
特殊外交委員会設置の件通過について

第八三〇號

往電第八二五號ニ關シ

蔣介石及孫科等三中全会出席ノ多數委員ハ十六日午前中山陵及譚延闓墓ニ參詣シ午後蔣介石主席ノ下ニ第一次正式會議ヲ開キタルカ右會議ニ於テ特殊外交委員會設置ノ件ヲ通過シ戴天仇、于右任、宋子文、伍朝樞、孫科、顧孟餘、朱培德、王正廷、朱家驊ヲ委員トスル外交部長及次長等モ之ニ加フルコトナリタル趣ナリ

冒頭往電ノ通り轉電セリ

廣東ヨリ香港ヘ轉報アリ度シ

583 昭和7年12月21日

在南京上村總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

三中全会第三次大会において孫科等提出の国力集中案通過について

南京 12月21日後発

本省 12月21日後着

第八四四號

往電第八三九號ニ關シ

三中全会ハ二十日午前第三次大會ヲ開キタルカ主ナル決議事項左ノ通

一、省政府委員制ヲ取消シ省長制度ニ改ムル案ノ原則ヲ通過ス

二、孫科等二十七名ノ委員ノ提出ニ係ル國力ヲ集中シテ危亡ヲ救済スル案ヲ修正通過ス

三、孫科等二十七名ノ委員ノ提出ニ係ル國力ヲ集中シテ危亡ヲ救済スル案ヲ修正通過ス

三、孫科等二十七名ノ委員ノ提出ニ係ル國力ヲ集中シテ危亡ヲ救済スル案ヲ修正通過ス

本案ノ内容ハ時節柄相當注目セラレ居ル處其要旨左ノ如シ

(一)眼前ノ内政ニ關シテハ全國ノ人力ヲ集中シ内部ヲ安定シ

外侮ヲ防キ中央及地方ノ關係ヲ調節シテ内亂ヲ中止シ政府

ハ人民ノ集會、結社、言論、出版、居住、信仰等ノ自由ヲ

保障シ一切ノ非法ナル監禁拘禁逮捕ヲ禁止シ地方ニ於ケル

施設ハ當該機關法ニ依リ之ヲ執行シ臨時機關又ハ國民名義

ヲ以テ猥リニ命令ヲ發スルコトヲ禁ス又各地ニハ原則トシ

テ政務委員會ヲ設ケ既存ノモノハ實際ノ必要無キニ至ルト

キハ直ニ之ヲ取消ス中央ハ大官ヲ各地ニ派遣シ市井ノ特質

及人民ノ苦痛ヲ視察報告スヘシ

(二)憲政ノ準備ニ關シテハ民族ノ力ヲ集中シ徹底的ニ外患ニ

抵抗シ危急ヲ救フ爲地方自治ヲ促進シ民國廿四年三月國民

大會ヲ開キ憲法ヲ制定シ且發布ノ期日ヲ決定セントス立法院ハ至急憲法草案ヲ起草シ國民ノ研究ニ資スヘシ  
冒頭往電ノ通り轉電セリ  
廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

584 昭和7年12月21日

在南京上村總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

羅文幹の三中全会における対日外交問題報告について

南京 12月21日後発

本省 12月22日前着

第八四六號

二十一日三中全会ニ於ケル羅文幹ノ對日外交問題報告要領報告ハ九、一八事件ヨリ説起シ日本ノ東北各地占領、滿洲國組織、上海事件、南京砲撃、天津、青島、福州等ノ攪亂ヲ指摘シ日本軍ノ大砲爆彈ニ依リ殲レタルモノ東北ニテ六萬餘人ニ達シ上海事件中日本軍ニ慘殺セラレタル無辜ノ人民ハ幾何ナルヲ知ラス又九月十六日ニハ撫順附近ニテ村民二千七百餘人ヲ屠殺シ最近ニテハ熱河ヲ脅カシ山海關ヲ擾

亂セリト述ヘ而モ之ニ對シ支那人民ハ僅ニ最モ平和ニシテ正當ナル自衛手段トシテ日貨抵制ヲナセル處日本政府ハ之ニ壓迫ヲ加ヘサレハ事件前ニ於ケル通商關係ヲ恢復シ難シトノ因果顛倒ノ見解ヲ有スト云ヒ日本ノ罪狀トシテ法律ノ基本原則及人道觀念ニ違反シ國際公法ノ原則及聯盟規約、不戰條約、九國條約並ニ累次ノ聯盟決議案及聯盟ニ於ケル日本自ラノ誓約ニ違反スルコトヲ擧ケ轉シテ支那側ハ從來最モ重要ナル原則トシテ(一)東北問題解決ニ關スル如何ナル辦法モ東北偽組織ノ維持ヲ前提トスルコトヲ容認セス(二)東北問題解決ノ合理的辦法ハ聯盟規約不戰條約九國條約ノ文字及精神並ニ支那ノ主權ニ抵觸セス且極東ノ永久平和ヲ確保シ得ルコトヲ必要條件トナスコトヲ堅持シ居レリト述ヘ最後ニ今日ノ國際的形勢ヨリ見テ平和ト公平及條約ノ尊嚴ハ未タ完全ニ武力ノ支配ヲ離脱シ居ラサルニ付全國ノ力ヲ集中シ並ニ有效ナル抵抗方法ニ依リ暴力者ト相見ントスト結ヒタルモノナリ

冒頭往電ノ通り轉電セリ

廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

585

昭和7年12月24日  
内田外務大臣より  
在英国松平大使、在ソ連邦大田(為吉)大使、在米國齋藤臨時代理大使他宛(電報)

三中全会の審議状況に関する情報について

本省 12月24日発

合第二四三二號

「支那情報」

一、第三次中央執監全体會議ハ豫定ノ如ク十五日南京中央黨部ニ於テ開會蔣介石、戴天仇、于右任、丁維汾、居正及顧孟餘ヲ主席團ニ推シ葉楚傖ヲ秘書長トシ參加委員約百名ハ黨務、政治、軍事、經濟、教育ノ五審査委員會ニ分レ二十三日迄議事ヲ續行シタル後閉會セルカ同大會ニ於ケル主ナル決定事項ハ黨務ニ關シテハ孫科ノ提出ニ係ル國力集中國難救濟案、之ニ附隨スル中央集權制確立及憲政促進ニ關スル具体案並ニ中央執行委員會常務委員ノ權限擴大案等ニシテ內政一般ニ關シテ積極的航空發展方針、全國禁煙會議招集等トナルカ外交ニ關シテハ特殊外交委員會設定ノ可決及羅文幹ノ對日外交問題ノ報告(日貨低制<sup>(紙)</sup>ハ日本ノ侵略ニ對スル自衛手段ナリ東北問題解決辦法ハ東北偽組織ノ維持ヲ前提トスルモノタルヘカラス

586

昭和7年12月28日  
在福州守屋總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

福建省政府改組後の情況等について

福州 12月28日後発  
本省 12月28日後着

第三七七號

改組後ノ省政府及其他ニ關シ左ノ通

派トノ合作ヲ策シタルモノノ如ク右兩派ハ何レモ政權ニ有付カン爲之ニ應セムトスルモノノ如シ  
三、斯シテ本大會ハ孫科、伍朝樞等ノ國難救濟案、積極抗日案等ノ提出アリタル外何等ノ重要決定等ナク平穩裡ニ終了セル次第ナルカ今後中央ノ實權ハ蔣、汪精衛及胡漢民ヨリ成ル政治會議常務委員會ヨリ中央執行委員會常務委員(蔣、汪、胡三名ノ外于右任、居正ノ二元老、蔣介石腹心ノ陳果夫及葉楚傖並ニ孫及顧孟餘ノ九名ヨリ成ル)ニ移リ蔣ハ汪、孫兩派ト合作シツツ(汪ハ行政院長ニ留任シ孫ハ立法院長ニ就任スヘシト傳ヘラル)而モ實質ニ於テ壓倒的優勢ヲ保持スルコトナルヤニ認メラル

宜シク聯盟規約不戰及九國條約ノ文字精神並支那ノ主權ニ抵觸セサルモノタルヘシ云々)アリタル外ハ嚴秘ニ附セラレ居ルモ新聞紙ニ洩レタル所ニ依レハ伍朝樞、宋子文等ノ提出ニ係ル積極的抗日案(一)熱河平津ニ有力部隊ヲ集中シ失地回復ニ當ラシム(二)黨部及政府ノ全力ヲ以テ義勇軍ヲ援助シ(三)同シク黨政ノ全力ヲ擧ケテ國民ヲ指揮シ以テ日貨ヲ抵制ス)ノ採擇並ニ宋慶齡、孫科等ノ露支通商條約締結交渉促進ノ提案アリタルモノノ如シ  
二、今次三中全会ニ對スル各派ノ態度ヲ見ルニ西南派(廣東ヲ中心トス)ハ當初ヨリ蔣介石ノ獨裁絕對反對及積極的抗日剿赤政策ヲ標榜シアハヨクハ西南側委員ノ不出席ニ依リ大會成立ヲ不能ナラシメント試ミタル如クナルカ何分ニモ蔣派委員ハ七十名ヲ算スル有様ニテ西南派ノ「サボターヂユ」ヲ以テスルモ大會成立ヲ妨クル能ハサルヲ看取セルヲ以テ終ニ僅々四名ノ陣笠ヲ出席セシメルコトトセリ蔣介石ハ最近其ノ獨裁政治ニ對スル各方面ノ批難喧シク且ハ國難ノ折柄ニモアリ己ノ腹心陳果夫、陳立夫兄弟ノ主張スル獨裁制度確立ノ提案ハ四中全会迄持越サシメ今次ハ專ラ抗日剿赤ノ看板ノ下ニ改組派及孫科

一、省政府ニ於テハ海軍派及福建派ノ勢力全ク驅逐セラレ各科ノ小役人迄モ廣東人ニ依リ置キ換ヘラレ(外交科長ハ蔣光鼐ノ親戚タル蔣銜銜任命サル)又福建ヲ代表シテ居殘リタル林知淵ノ地位ハ極メテ不安定ニシテ彼ノ勢力モ微々タルモノトナレルカ如シ借款整理其他ノ懸案ニ付テハ新政府ヲ相手トシテ交渉ヲ仕直ス必要アリ  
二、排日ノ點ハ目立チタル變化無ク日貨取引モ多少ハ行ハレ居ルモ傳ヘラルルカ如キ抗日案三中全会ニテ贊擇セラレタリトセハ當地ハ當然大影響ヲ受クヘク新聞記事ニハ排日色彩日ヲ追フテ濃厚トナリツツアリ又鄭維新銃殺ノ頃上海ニ逃レ居タル夏禹疇(縣教育會長ニシテ救國會ノ指導者)歸來ト共ニ民衆救國會ハ其活動ヲ開始シ二十四日綿布支那商陳伊金ヲ奸商トシテ捕縛シ數時間市内ヲ引廻シ之ニ關聯セル布告ヲ各所ニ貼付セリ  
三、陳國輝處刑後其部下福州ニ潛入シ蔣主席ノ首ヲ狙フ者アリトテ陳ノ死體處分ノ爲ニ來レル親族等八名ノ者二十三日逮捕セラレ其後陳部下ノ土匪ト覺シキ者十數名モ公安局ニ依リ逮捕セラレタリ  
四、共產黨員力學校其他ニ潛伏シ活動ヲ續ケ居リ二十五日省

政府ニ傳單ヲ撒布スルニ至レル趣ニテ數日來公安局ハ市内及附近村落ニ於テ共產黨ヲ爲シ連日十數名ツツ逮捕シ居レリ

五、公安局ノ花會賭博取締ハ依然繼續セラレ之ニ關聯シテ無賴漢ノ強迫事故瀕發シ居レリ臺灣人關係ニテ強迫ヲ受ケタル者一件アリ即チ二十一日王文生ナル籍民ノ宅ニ第二保安隊ニ屬スル者一名花會取締ノ名ヲ以テ平服ノ儘入り來リ家人ヲ強迫シテ金品ヲ捲上ケタル後通知ニ依リ馳ケ付ケタル領事館巡查ノ姿ヲ見ルヤ所持ノ拳銃ヲ殘シテ逃

走セル事件アリ(右拳銃ハ保安隊長ヨリ哀願ノ次第アリ將來ノ取締ニ關スル誓約書ヲ徴シタル上二十四日右隊長ニ返附セリ)又陳金禧ナル者ハ客月廿九日花會取締ノ爲臨檢セル警察員ヲ拳銃ニテ負傷セシメタル理由ヲ以テ二十六日公安局ニ依リ銃殺ニ處セラレタリ之ニ關聯セル布告ニ於テ同人カ臺灣浪人ト結托シ賭博ヲ爲シタル事ヲ掲記シ居レリ

支、滿、北平、奉天、天津、南京、福州、汕頭、廣東へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

### 付一 共產軍の福建省進出問題

587 昭和7年4月13日 在廈門三浦領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

共產軍が福建省西部に進攻し龍巖占領後更に進撃中について

廈門 4月13日後発  
本省 4月14日後着

第一四一號

客年往電第一二六號ノ通第四十九師張貞軍ノ一部引揚ニ依リ閩贛粵省境附近ノ共產軍ハ再ヒ猖獗トナリタルカ最近閩西方面ヨリ來厦セル者ノ談話並ニ新聞ノ情報ヲ綜合スルニ客月以來廣東方面ヨリノ討伐進行ト共ニ省境附近ノ共產軍ハ漸次閩西ニ流レ込ミ管テ共產軍ノ中心地タリシ龍巖<sup>(巖カ)</sup>ニ於テ遂ニ張貞部下ノ一獨立團ヲ破リ去ル十日同地ヲ占領シ更ニ漳州ヘノ要路ニシテ目下張貞ノ前敵部隊<sup>逢年</sup>旅ノ集中セル適中ニ迫リツツアリテ之カ爲同方面ヨリ漳州ニ避難シ來ルモノ多ク同地ニ於テハ早くモ共產軍襲來ノ謠言行ハルルニ至リタルカ張貞トシテハ自己ノ職責上ノ面目アリ一

ハ廣東軍入閩剿共ニ依リ地盤ヲ侵蝕セラルルノ虞アルヲ以テ廣東ニ代表ヲ派シテ然ル可ク妥協案ヲ講スルト共ニ去ル十日俄ニ漳州ニ於ケル自働車ヲ徵發シテ同地及附近ニ駐在スル一團ヲ適中ニ向ケ輸送ヲ開始セル趣ナリ

尙四十九師團司令部ニ於テモ龍巖<sup>(巖カ)</sup>ノ陥落ヲ認ムルト共ニ廣東軍ハ未タ蕉岑地方ニ在リテ入閩シ居ラス右輸送部隊ノ適中着ト共ニ共同討伐ニ出ツル筈ナル旨發表シ居レリ

支、北平、奉天、天津、南京、福州、汕頭、廣東へ轉電セリ

588 昭和7年4月14日 在廈門三浦領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

共產軍の廈門侵入防止につき中国側に問合せるべきとの英國領事意向および我が方応答振りについて

廈門 発  
本省 4月14日後着

第一四三號

往電第一四一號ニ關シ